

# 発達障がい者支援センター(エルムおおさか)利用者調査 調査結果

## (1) 調査対象者の属性

### ① 居住区

図表 問1(1) 居住区(SA)

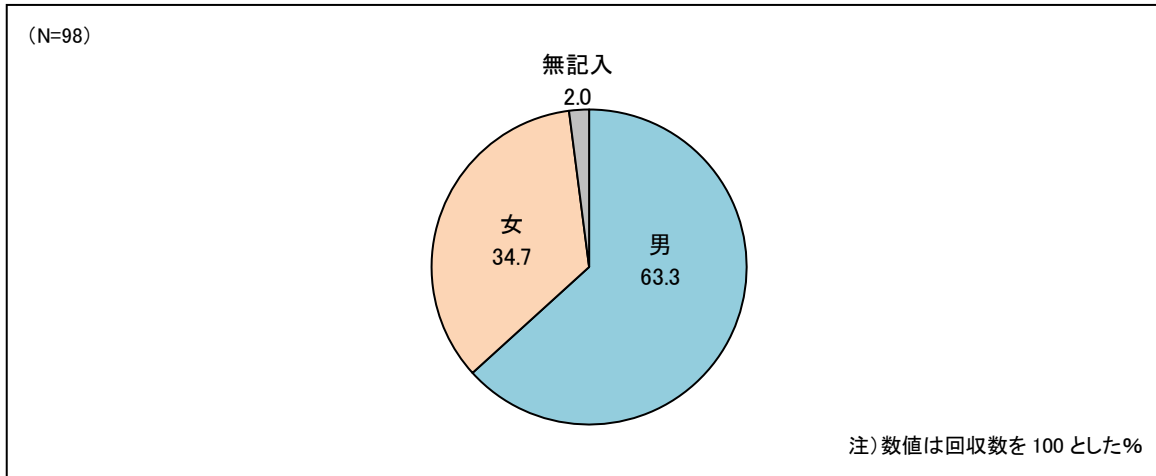
(N=98)

北区	都島区	福島区	此花区	中央区	西区	港区	大正区	天王寺区	浪速区	西淀川区	淀川区	東淀川区	東成区	生野区	旭区	城東区	鶴見区	阿倍野区	住之江区	住吉区	東住吉区	平野区	西成区	無記入
0.0	5.1	2.0	2.0	6.1	1.0	0.0	3.1	3.1	0.0	1.0	2.0	7.1	1.0	8.2	3.1	4.1	1.0	4.1	5.1	4.1	10.2	17.3	6.1	3.1

注) 数値は回収数を 100 とした%

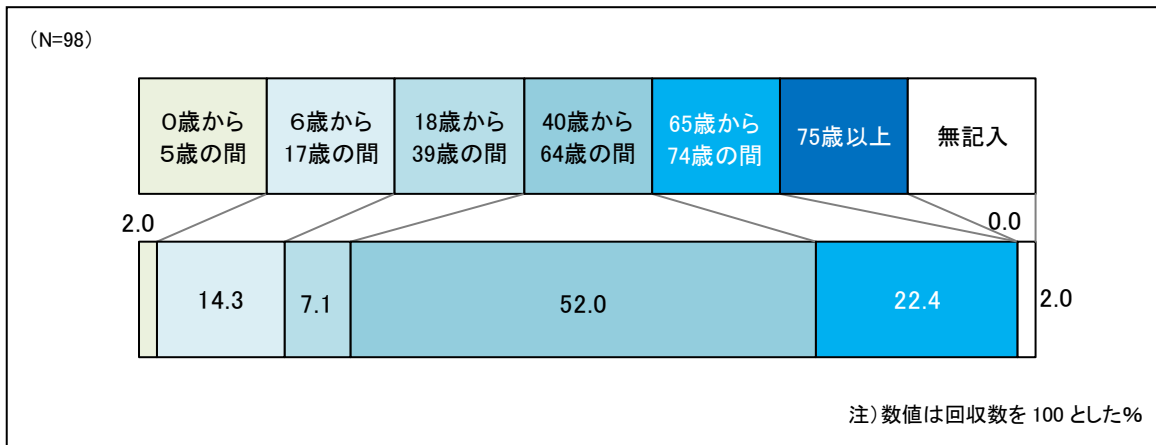
### ② 性別

図表 問1(2) 性別(SA)



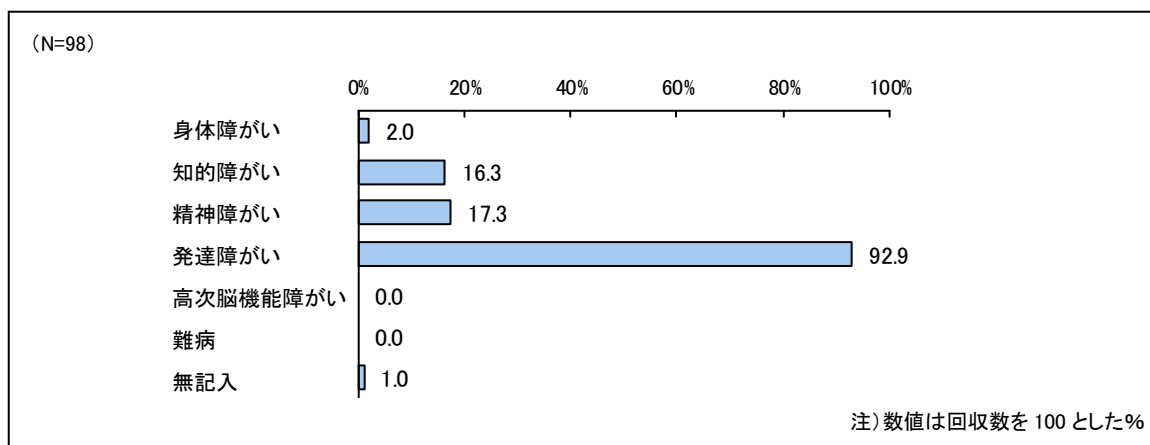
### ③ 年齢

図表 問1(3) 年齢(SA)



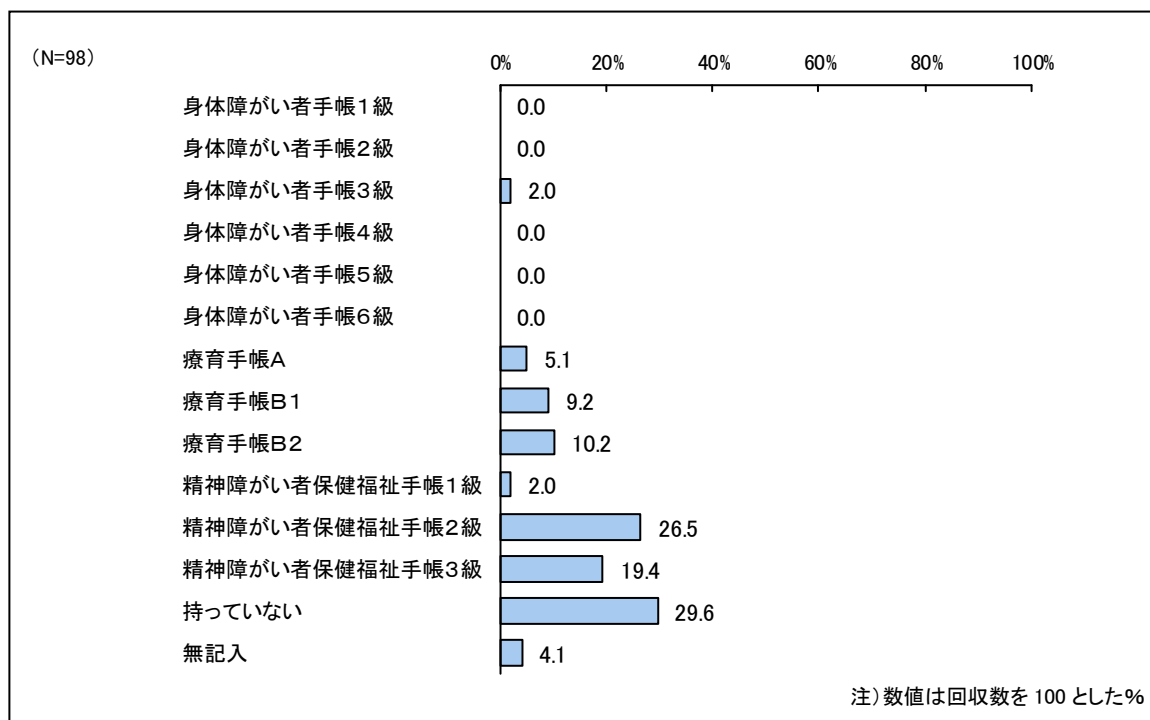
#### ④ 障がいの種類

図表 問1(4) 障がいの種類(MA)



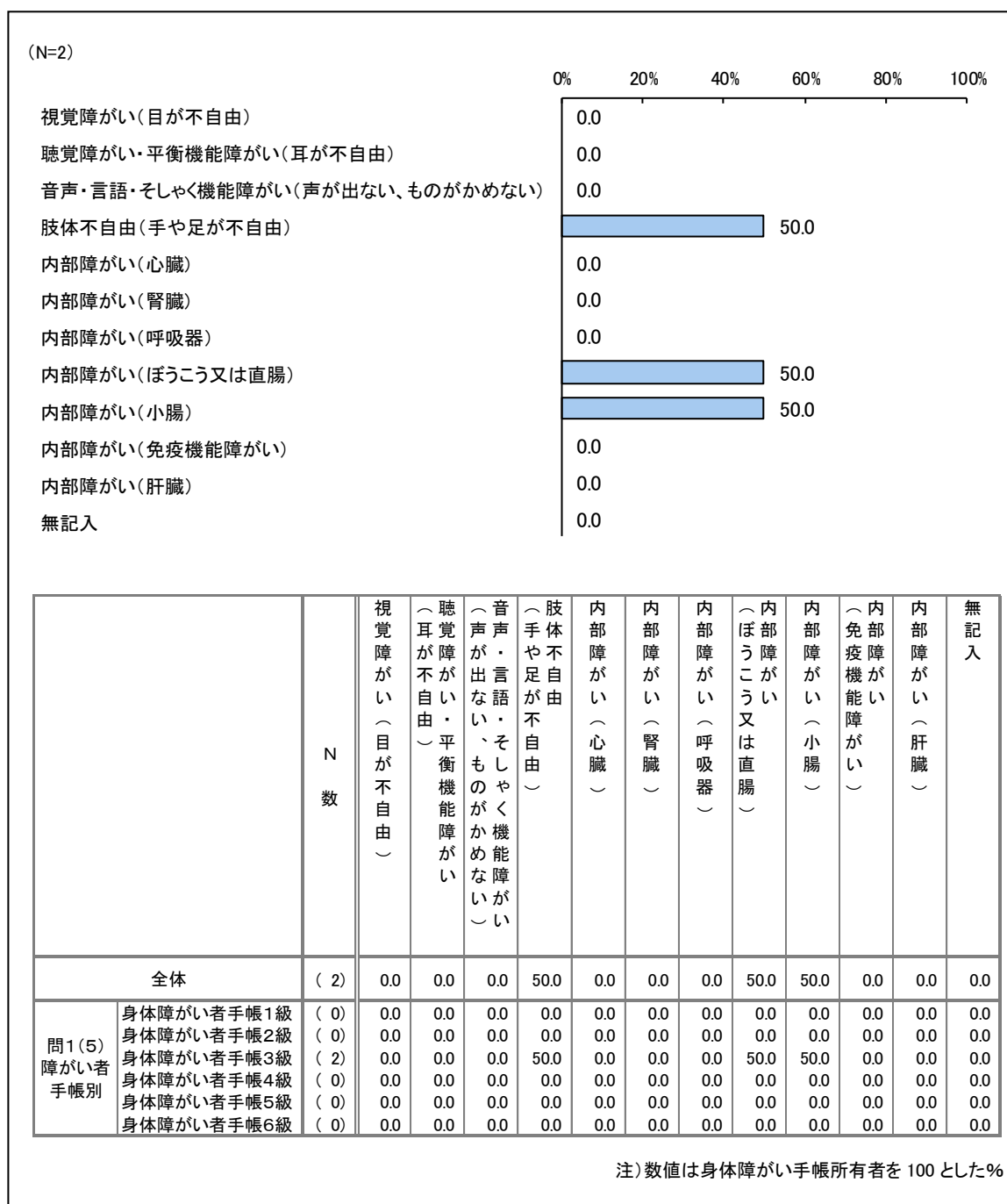
#### ⑤ 障がい者手帳の種類・等級

図表 問1(5) 障がい者手帳の種類・等級(MA)



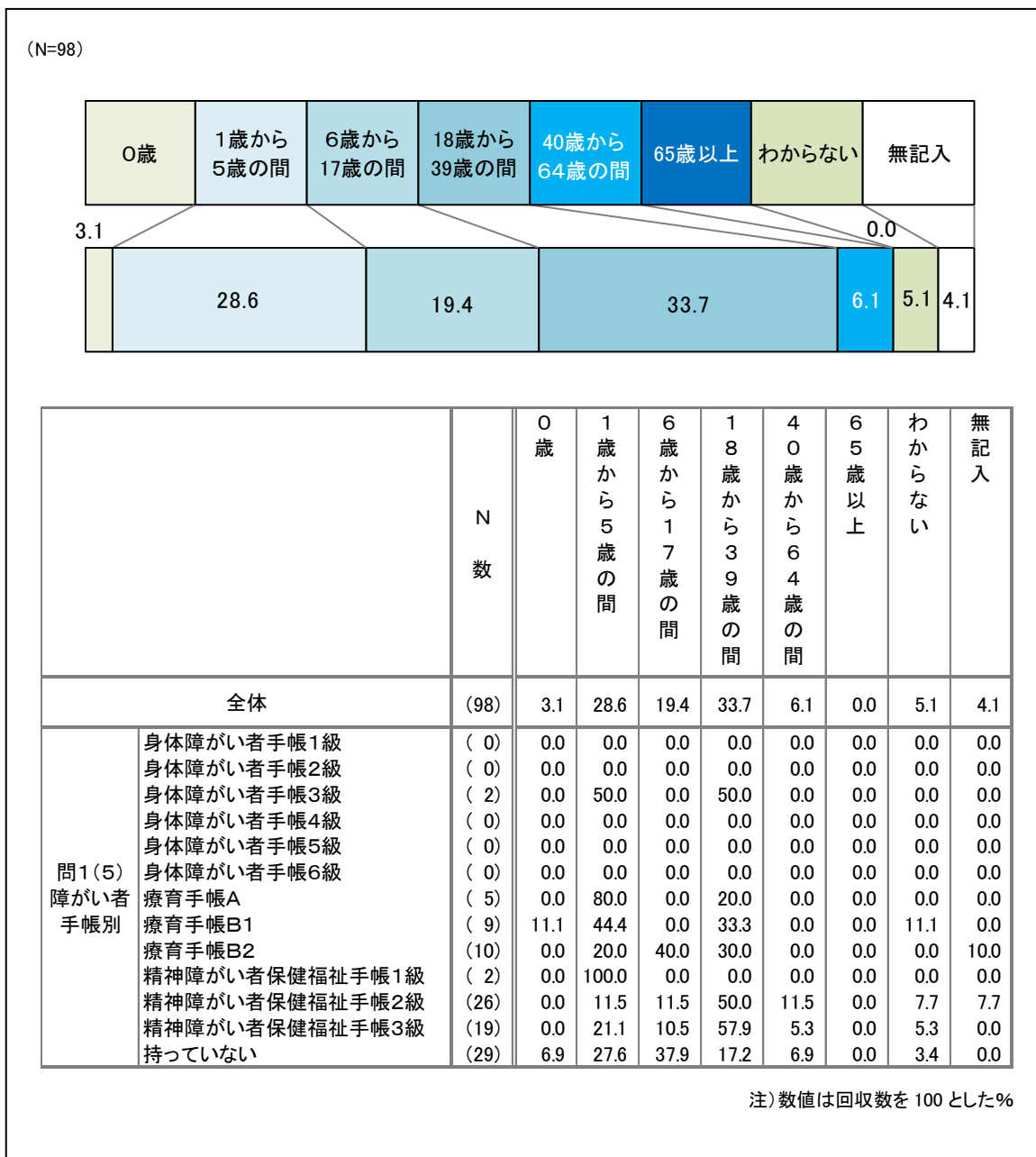
⑥ 障がいの種類(部位)

図表 問1(6) 障がいの種類(部位)(MA)



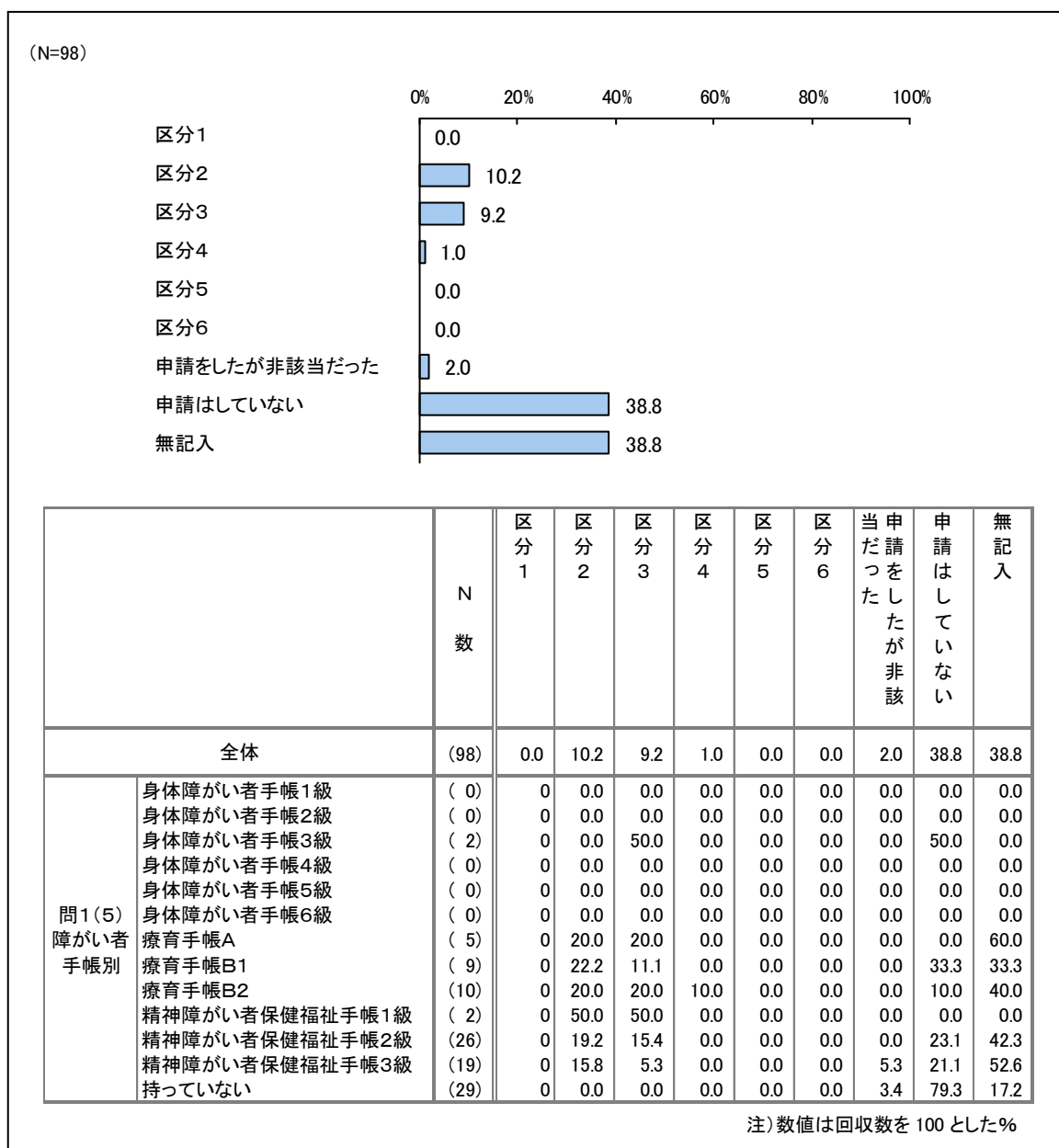
⑦ 障がいの発生(気づいた)時期

図表 問1(7) 障がいの発生(気づいた)時期(SA)



⑧ 障がい程度区分

図表 問1(8) 障がい程度区分(MA)



## (2) 障がい福祉に関するサービスについて

### ① 利用している障がい福祉サービス

最も利用率が高いのは「市営交通の運賃割引証・重度障がいタクシー給付券」(48.0%)で、次いで「自立支援医療(精神通院)」(32.7%)、「相談支援(計画相談支援・地域相談支援・障がい児相談支援)」(22.4%)が高い。

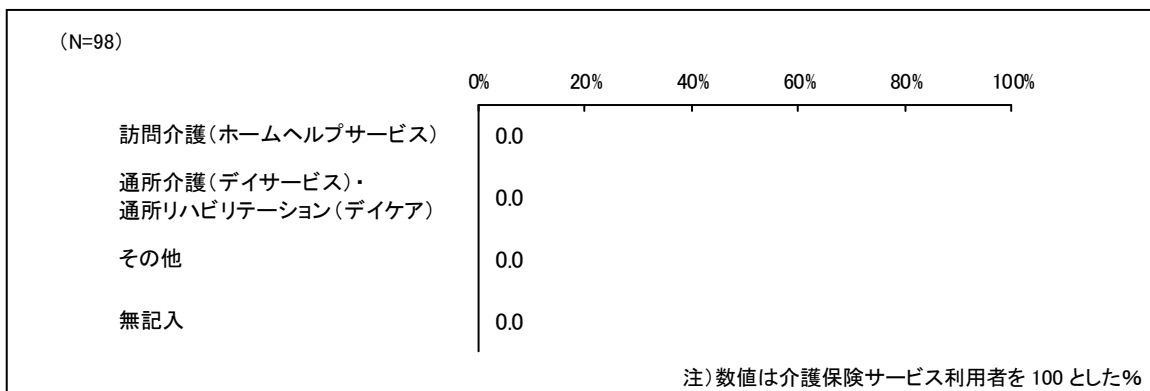
図表 問2(1) 利用している障がい福祉サービス(MA)



## ② 利用している介護保険サービス

介護保険サービスの利用はみられない。

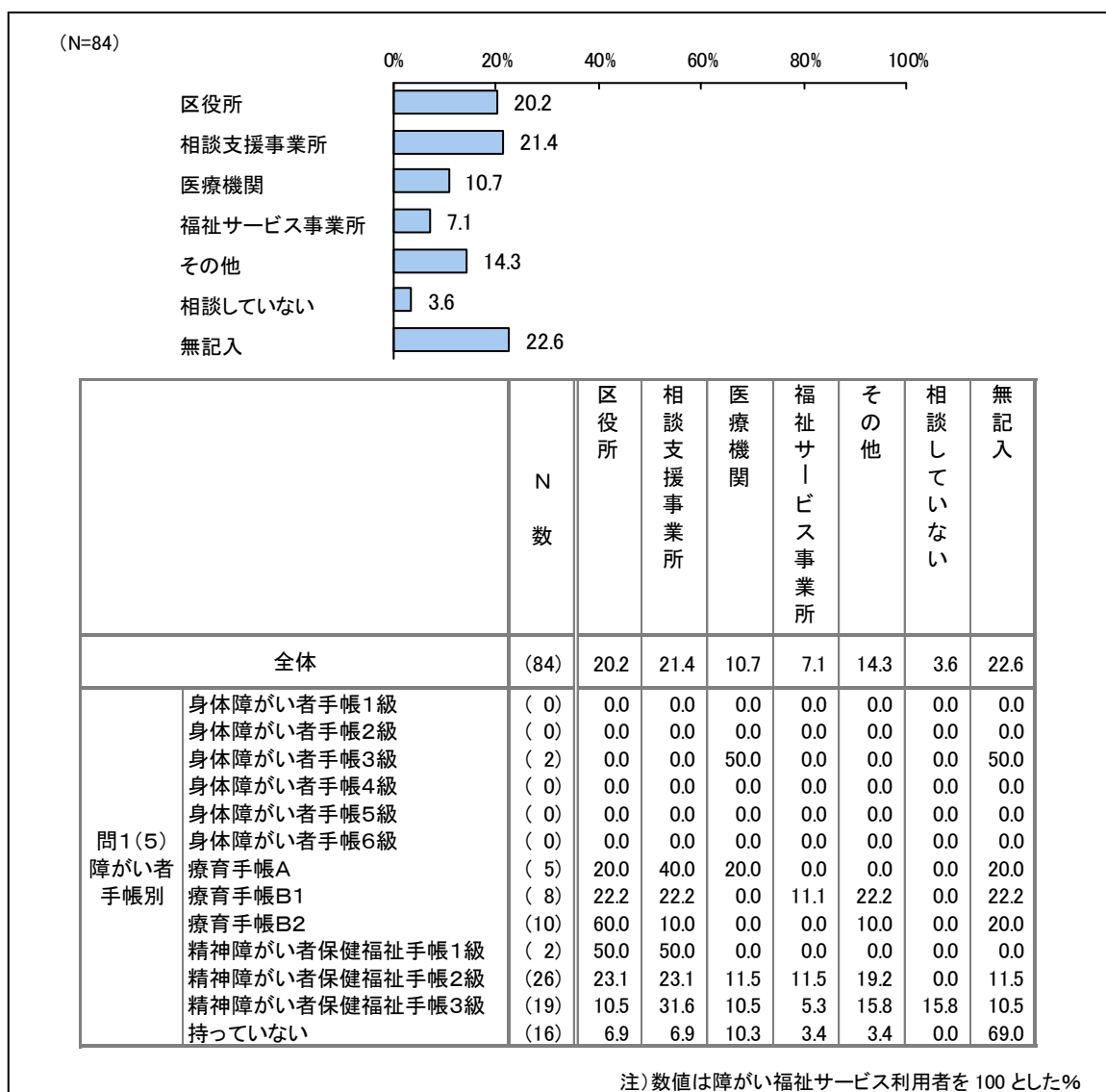
図表 問 2(2) 利用している介護保険サービス(MA)



## ③ 障がい福祉に関するサービス利用にあたっての主な相談先

「相談支援事業所」(21.4%)、「区役所」(20.2%)が 2 割台で高い。

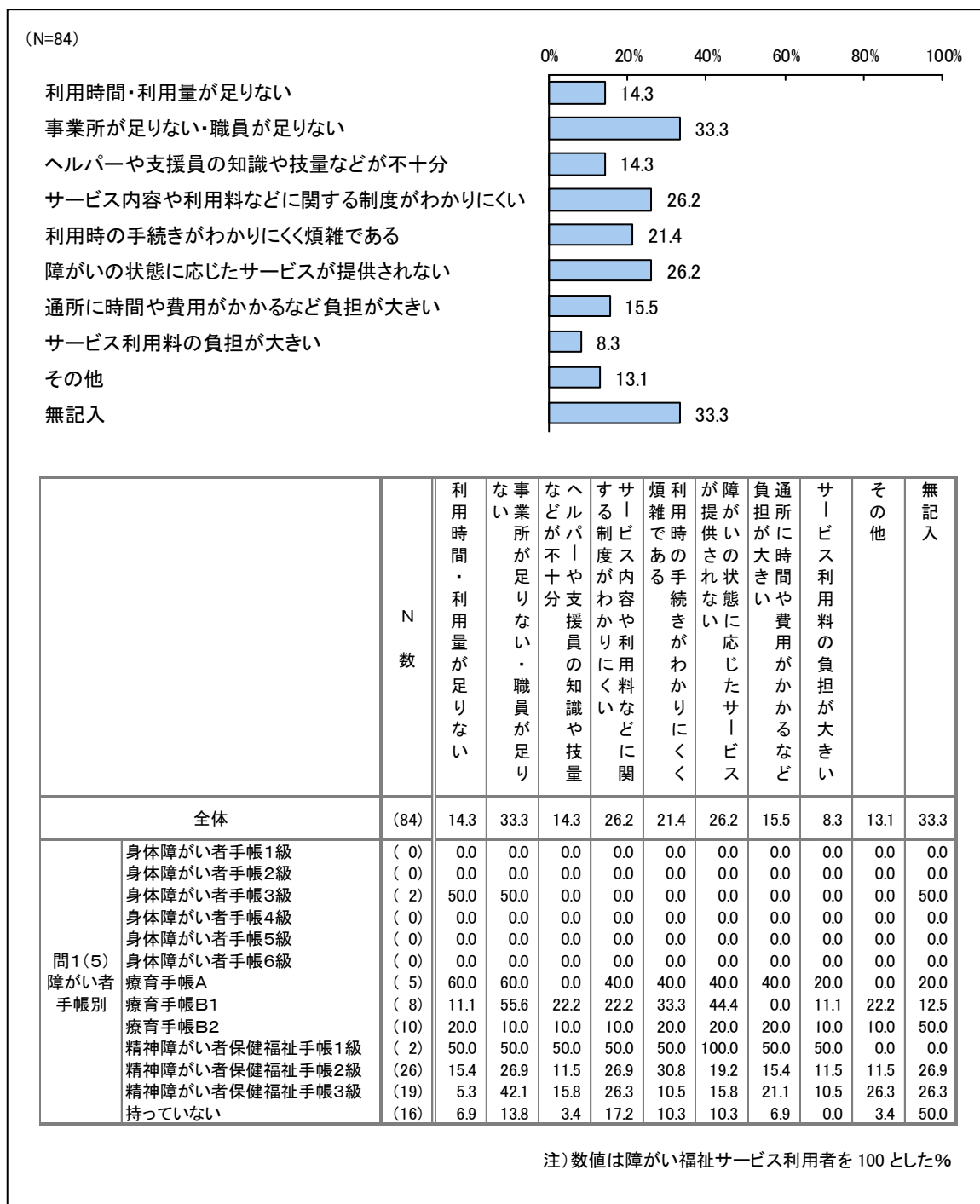
図表 問 2(3) 障がい福祉に関するサービス利用にあたっての主な相談先(MA)



#### ④ 障がい福祉に関するサービスを利用しているの問題点

「事業所が足りない・職員が足りない」(33.3%)が最も高く、次いで「サービス内容や利用料などに関する制度がわかりにくい」「障がいの状態に応じたサービスが提供されない」(各 26.2%)が高い。

図表 問2(4) 障がい福祉に関するサービスを利用しているの問題点(MA)

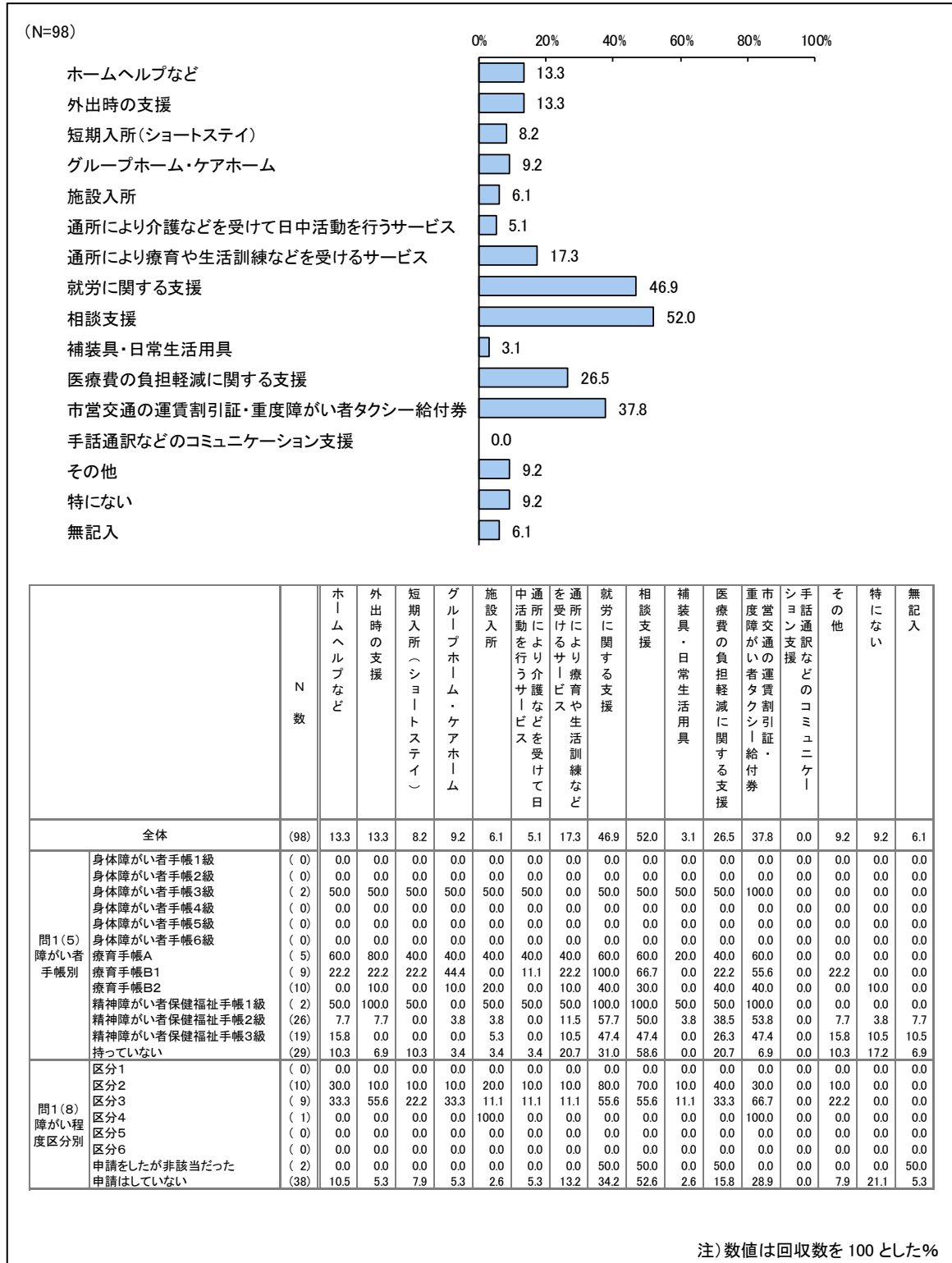




⑤ 今後利用したいと思う障がい福祉サービス

「相談支援」(52.0%)がトップ、以下「就労に関する支援」(46.9%)、「市営交通の運賃割引証・重度障がい者タクシー給付券」(37.8%)、「医療費の負担軽減に関する支援」(26.5%)が続く。

図表 2(5)今後利用したいと思う障がい福祉サービス(MA)



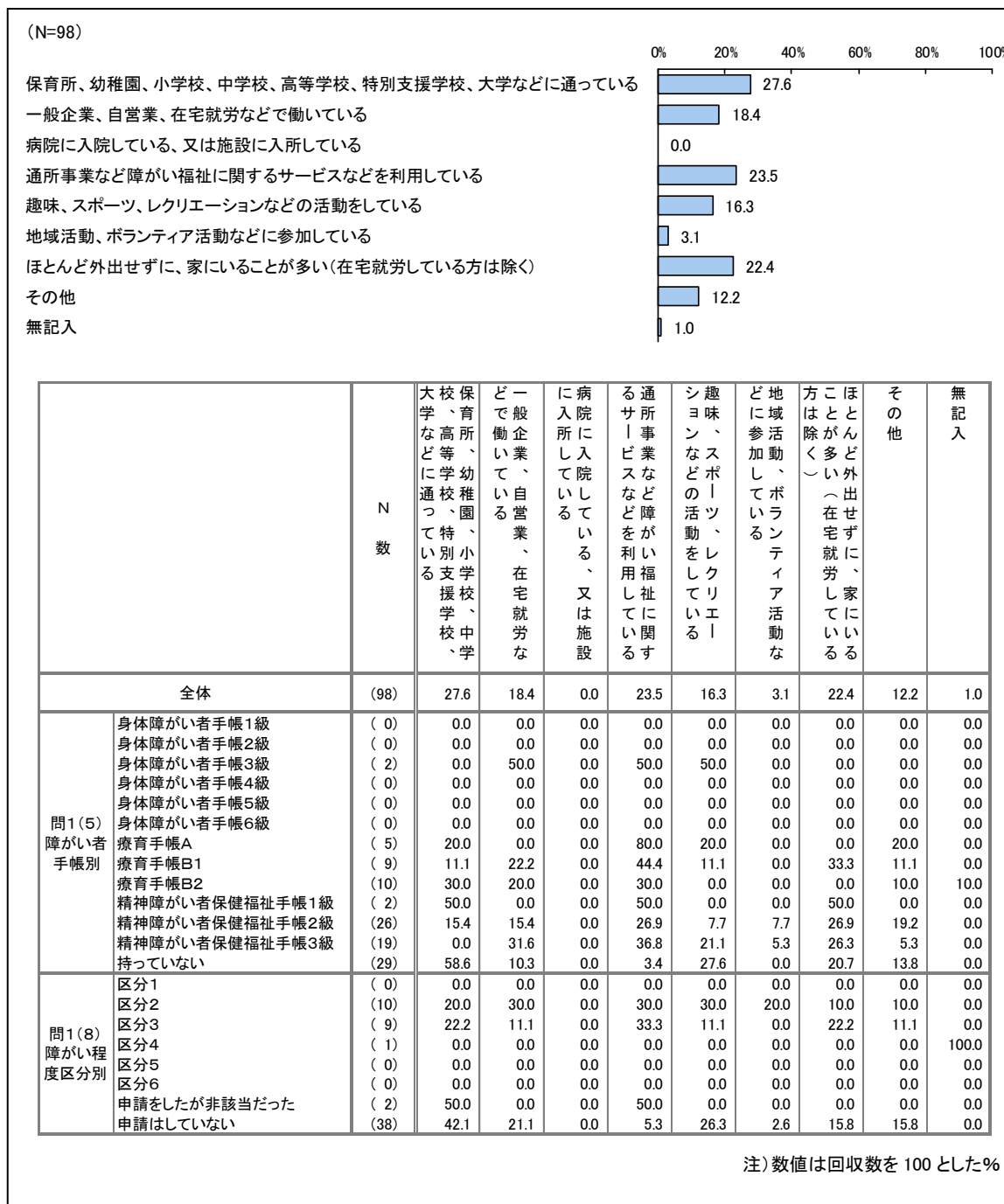
注) 数値は回収数を100とした%

### (3) 日常生活や社会参加について

#### ① 日中の主な活動

「保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学などに通っている」(27.6%)、  
 「通所事業など障がい福祉に関するサービスなどを利用している」(23.5%)、「ほとんど外出せずに、家にいることが多い(在宅就労している方は除く)」(22.4%)が 2 割台であがっている。

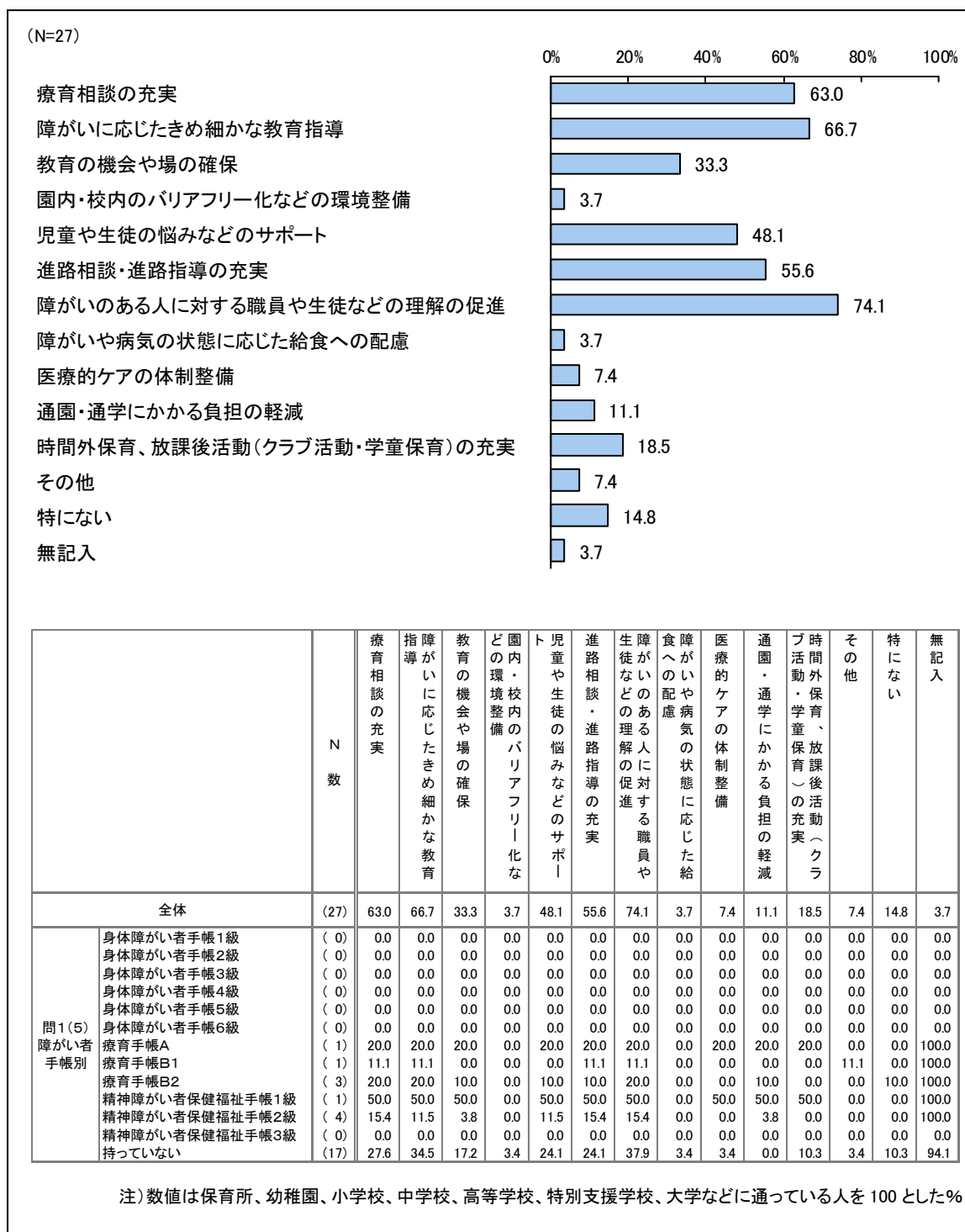
図表 問3(1) 日中の主な活動(MA)



## ② 保育や教育で充実してほしいこと

トップは「障がいのある人に対する職員や生徒などの理解の促進」(74.1%)、以下「障がいに応じたきめ細かな教育指導」(66.7%)、「教育相談の充実」(63.0%)が6割台、「進路相談・進路指導の充実」(55.6%)が5割台で続く。

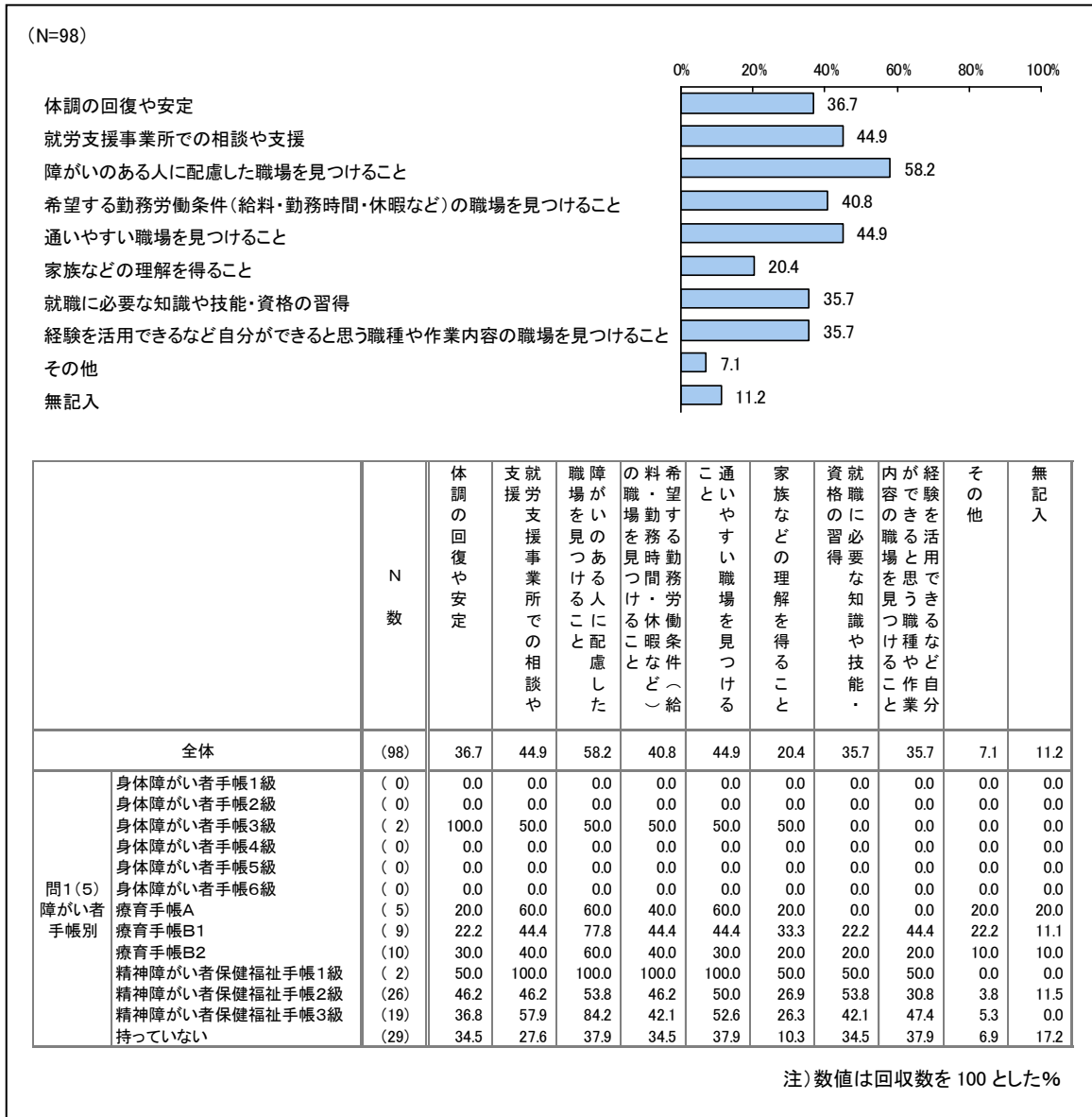
図表 問3(2) 保育や教育で充実してほしいこと(MA)



### ③ 一般就労につながったと思うこと、必要だと思うこと

「障がいのある人に配慮した職場を見つけること」(58.2%)が最も高い。以下「就労支援事業所での相談や支援」「通いやすい職場を見つけること」(各 44.9%)、「希望する勤務労働条件(給料・勤務時間・休暇など)の職場を見つけること」(40.8%)が 4 割台で続く。

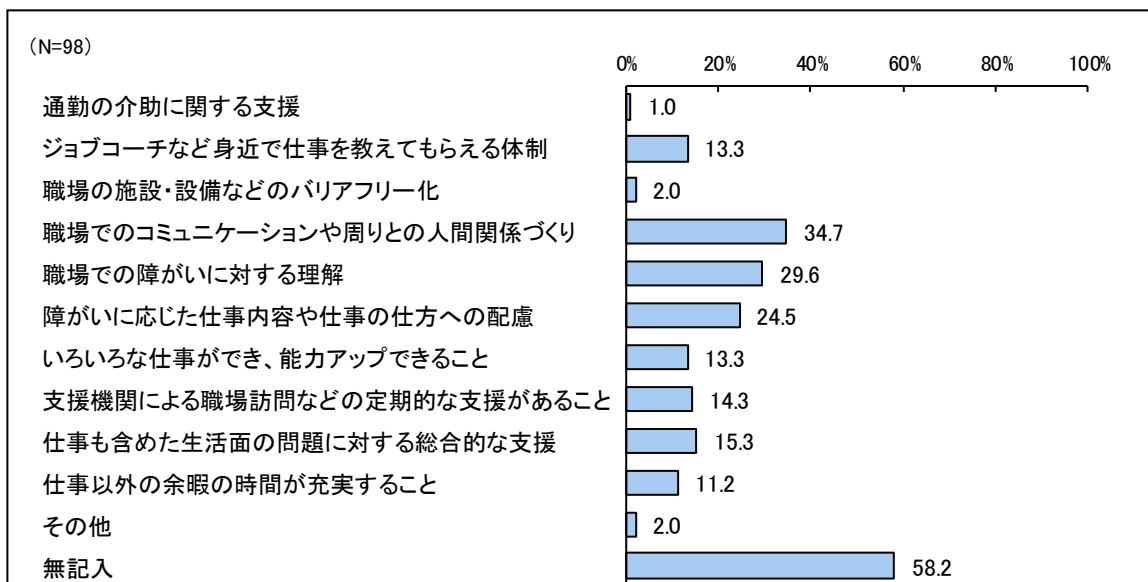
図表 問 3(3) 一般就労につながったと思うこと、必要だと思うこと(MA)



#### ④ 働き続けるために必要と思うこと

「職場でのコミュニケーションや周りとの人間関係づくり」(34.7%)が最も高く、次いで「職場での障がいに対する理解」(29.6%)、「障がいに応じた仕事内容や仕事の仕方への配慮」(24.5%)が高い。

図表 問3(4) 働き続けるために必要と思うこと(MA)



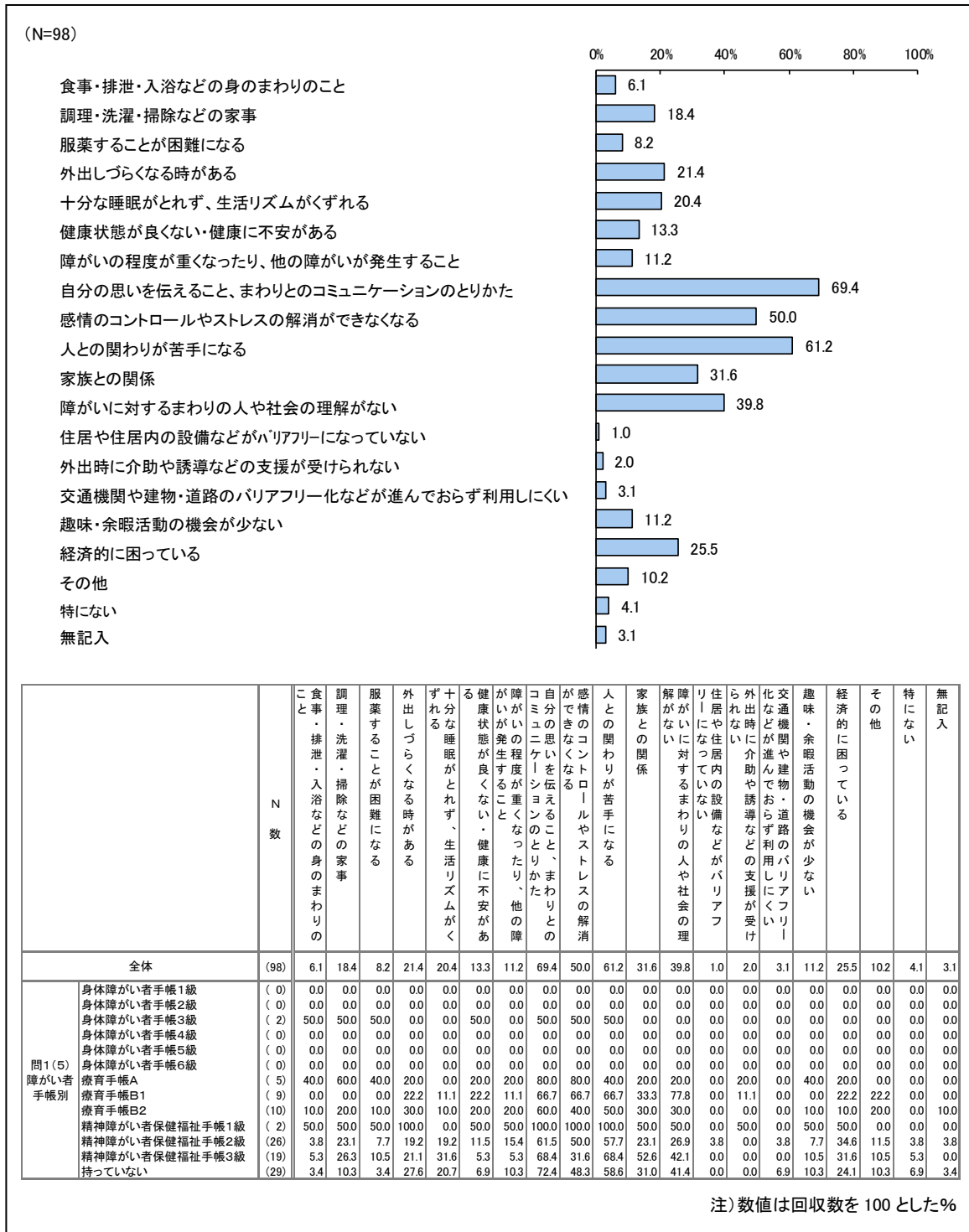
	N	通勤の介助に関する支援	ジョブコーチなど身近で仕事を教えてもらえる体制	職場の施設・設備などのバリアフリー化	職場でのコミュニケーションや周りとの人間関係づくり	職場での障がいに対する理解	障がいに応じた仕事内容や仕事の仕方への配慮	いろいろな仕事ができ、能力アップできること	支援機関による職場訪問などの定期的な支援があること	仕事も含めた生活面の問題に対する総合的な支援	仕事以外の余暇の時間が充実すること	その他	無記入	
全体	(98)	1.0	13.3	2.0	34.7	29.6	24.5	13.3	14.3	15.3	11.2	2.0	58.2	
問1(5) 障がい者 手帳別	身体障がい者手帳1級	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	身体障がい者手帳2級	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	身体障がい者手帳3級	(2)	0.0	0.0	50.0	100.0	100.0	100.0	50.0	50.0	100.0	0.0	0.0	
	身体障がい者手帳4級	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	身体障がい者手帳5級	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	身体障がい者手帳6級	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	療育手帳A	(5)	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	80.0
	療育手帳B1	(9)	0.0	11.1	0.0	44.4	44.4	33.3	11.1	22.2	22.2	11.1	0.0	44.4
	療育手帳B2	(10)	0.0	10.0	0.0	10.0	10.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	70.0
	精神障がい者保健福祉手帳1級	(2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
精神障がい者保健福祉手帳2級	(26)	0.0	26.9	0.0	42.3	34.6	34.6	7.7	26.9	30.8	15.4	3.8	42.3	
精神障がい者保健福祉手帳3級	(19)	5.3	15.8	5.3	42.1	42.1	36.8	21.1	15.8	15.8	15.8	5.3	47.4	
持っていない	(29)	0.0	6.9	0.0	27.6	13.8	10.3	10.3	3.4	6.9	6.9	0.0	72.4	

注) 数値は回収数を100とした%

⑤ 日常生活で障がいによって困っていること

トップは「自分の思いを伝えること、まわりとのコミュニケーションのとりかた」(69.4%)。次いで「人との関わりが苦手になる」(61.2%)、「感情のコントロールやストレスの解消ができなくなる」(50.0%)など、人間関係やメンタル面が上位にあがっている。

図表 問3(5) 日常生活で障がいによって困っていること(MA)

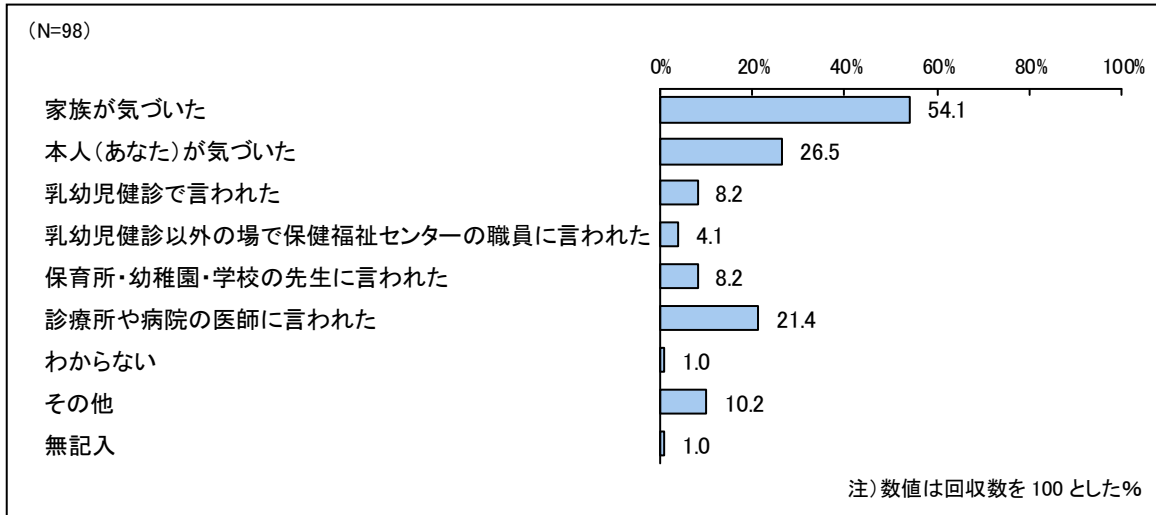


#### (4) 発達障がいのことについて

##### ① 発達障がいと気づいたのは誰か

トップは「家族が気づいた」(54.1%)、次いで「本人が気づいた」(26.5%)、「診療所や病院の医師に言われた」(21.4%)の順。

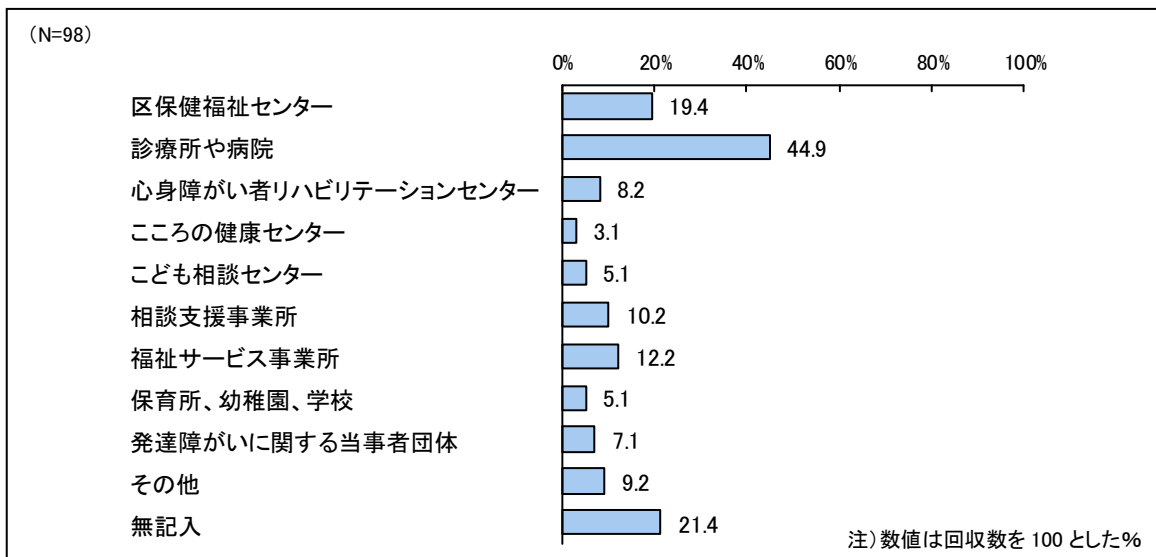
図表 問 4(1) 発達障がいと気づいたのは誰か(MA)



##### ② 大阪市発達障がい者支援センター(エルムおおさか)以外の相談先について

「診療所や病院」が 44.9%と最も高い。

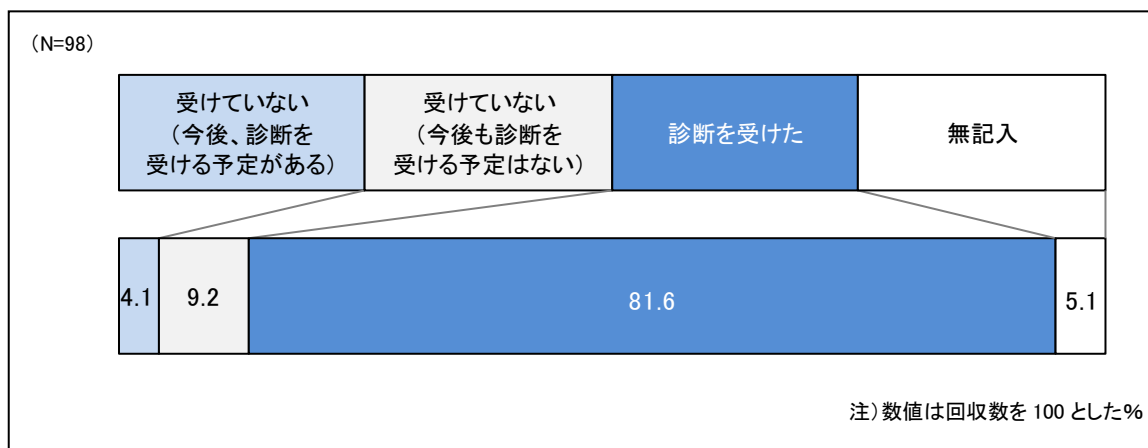
図表 問 4(2) 大阪市発達障がい者支援センター(エルムおおさか)以外の相談先について(MA)



### ③ 診断の有無

大半(81.6%)が「診断を受けた」と回答しているが、「受けていない(今後も診断を受ける予定はない)」も約1割(9.2%)みられる。

図表 問4(3)① 診断の有無(SA)



### ④ 診断を受けた医療機関と診療科目

診断を受けた代表的な医療機関と診療科目は以下の通り。

2件以上回答があった医療機関を掲載。

図表 問4(3)② 診断を受けた医療機関と診療科目

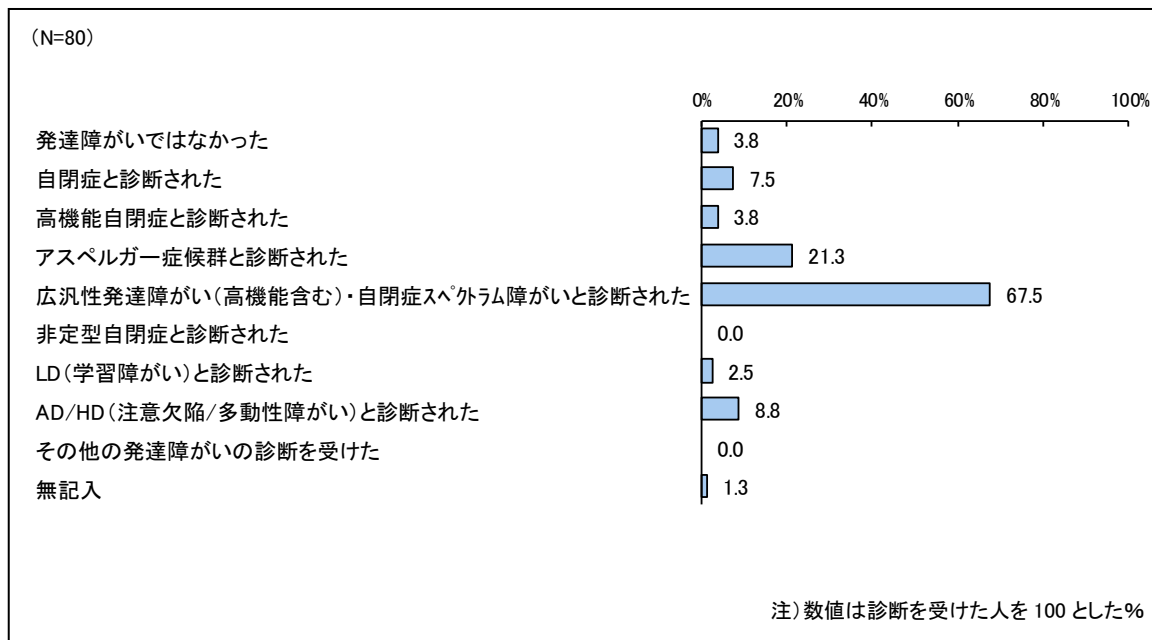
公的医療機関	6カ所	27 (精神科、小児科、他)
民間病院・診療所	5カ所	26 (精神科、心療内科、他)



### ⑤ 診断名について

「広汎性発達障がい(高機能含む)・自閉症スペクトラム障がいと診断された」(67.5%)が最も高く、次いで「アスペルガー症候群と診断された」(21.3%)が高い。「発達障がいではなかった」ケースも3.8%みられる。

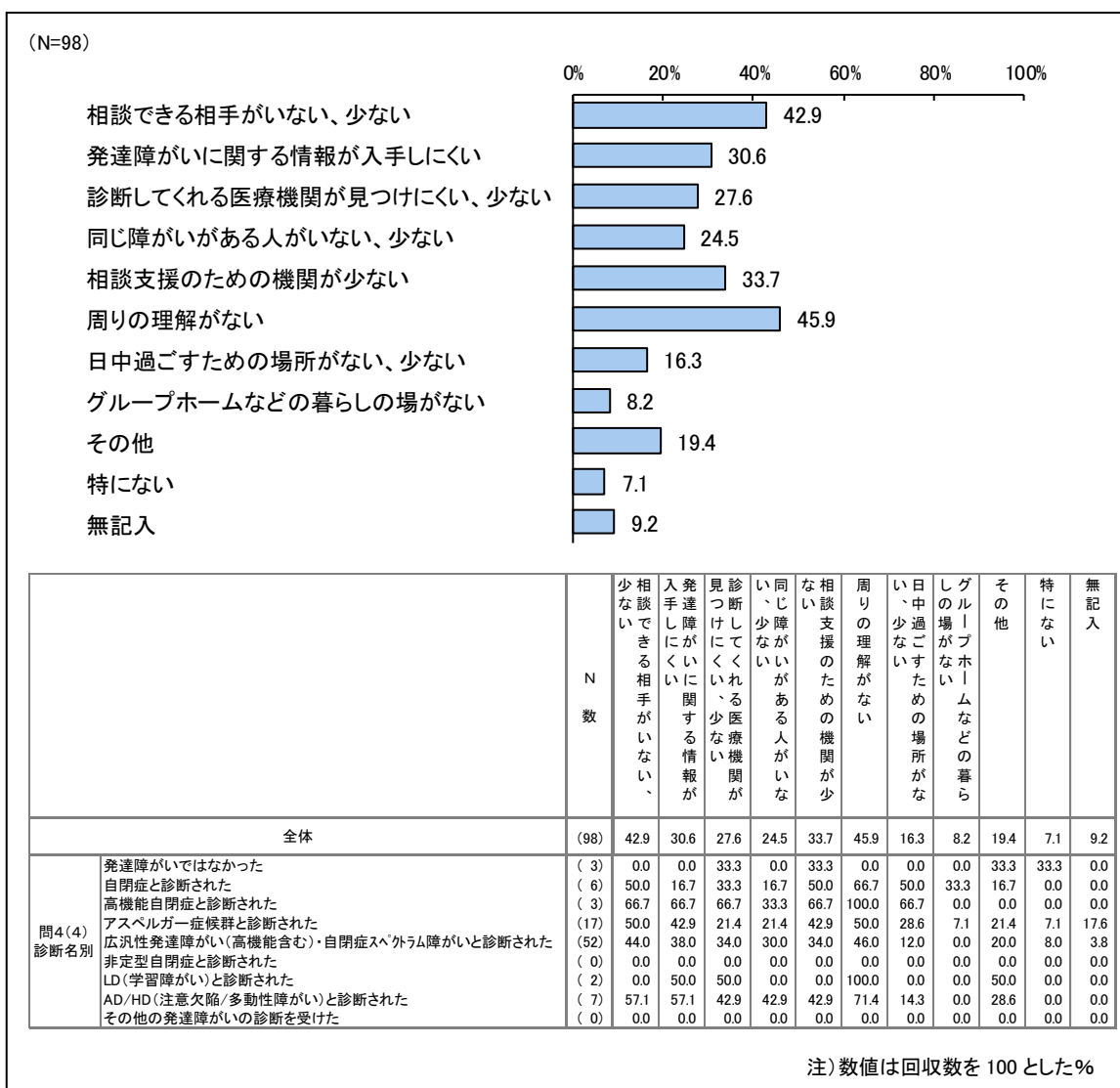
図表 問4(4) 診断名について(MA)



⑥ 発達障がい困っていること

「周りの理解がない」(45.9%)、「相談できる相手がいない、少ない」(42.9%)が高い。

図表 問4(5) 発達障がい困っていること(MA)

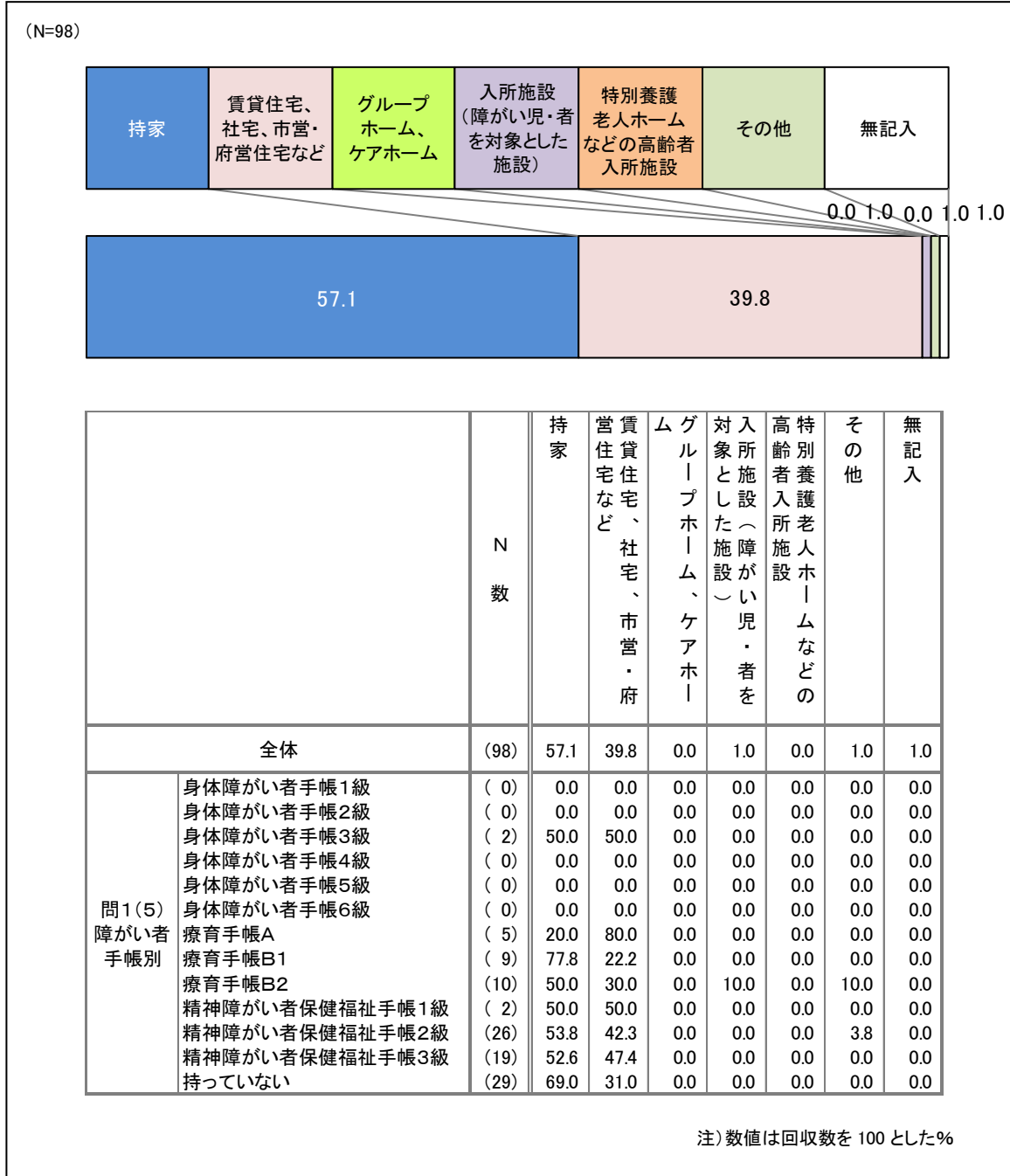


(5) 住まいについて

① 住まいの場所

「持家」が 57.1%で最も高く、次いで「賃貸住宅、社宅、市営・府営住宅など」(39.8%)。

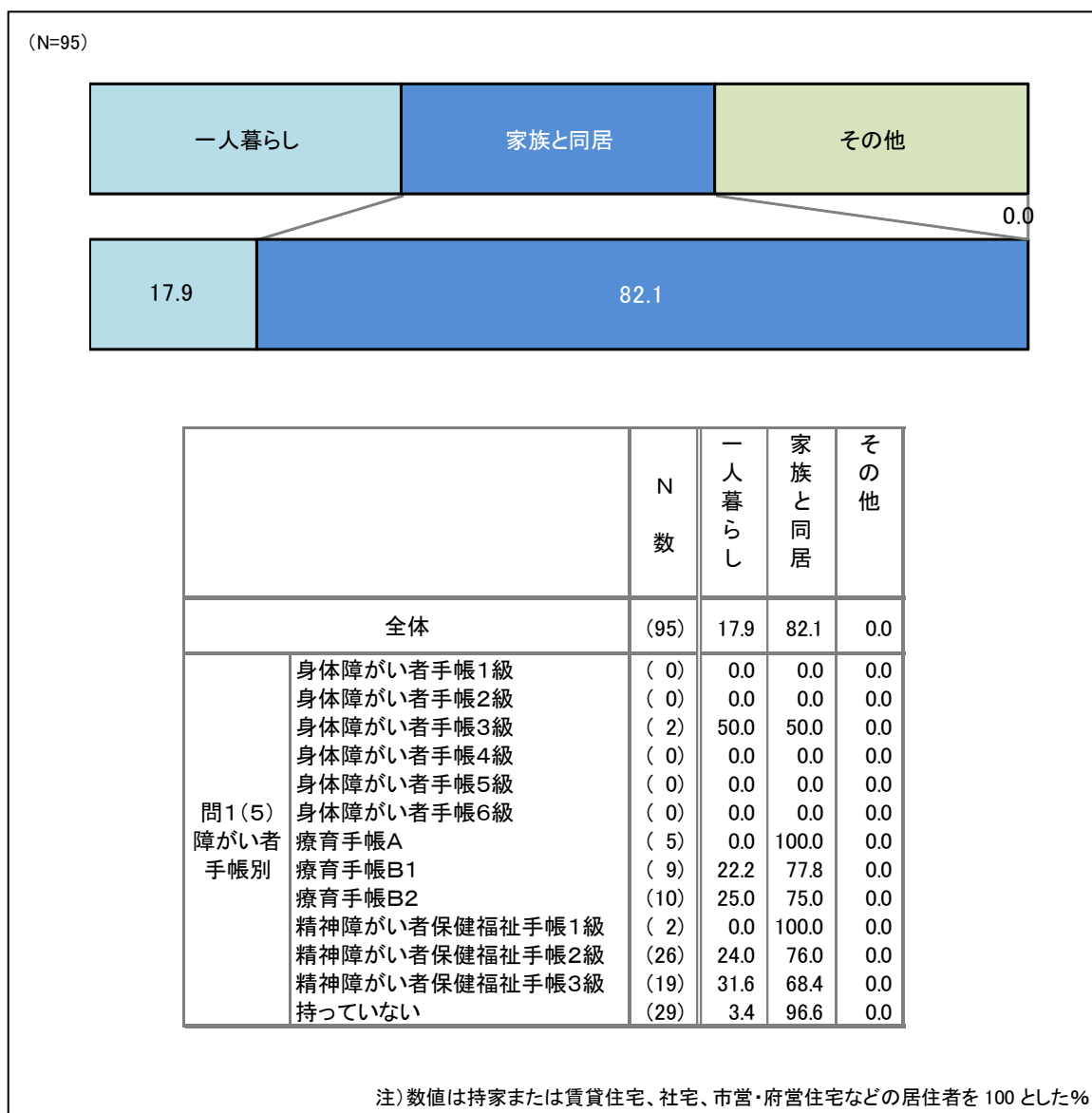
図表 問5(1) 住まいの場所(SA)



## ② 世帯形態

約 8 割(79.6%)が「家族と同居」。

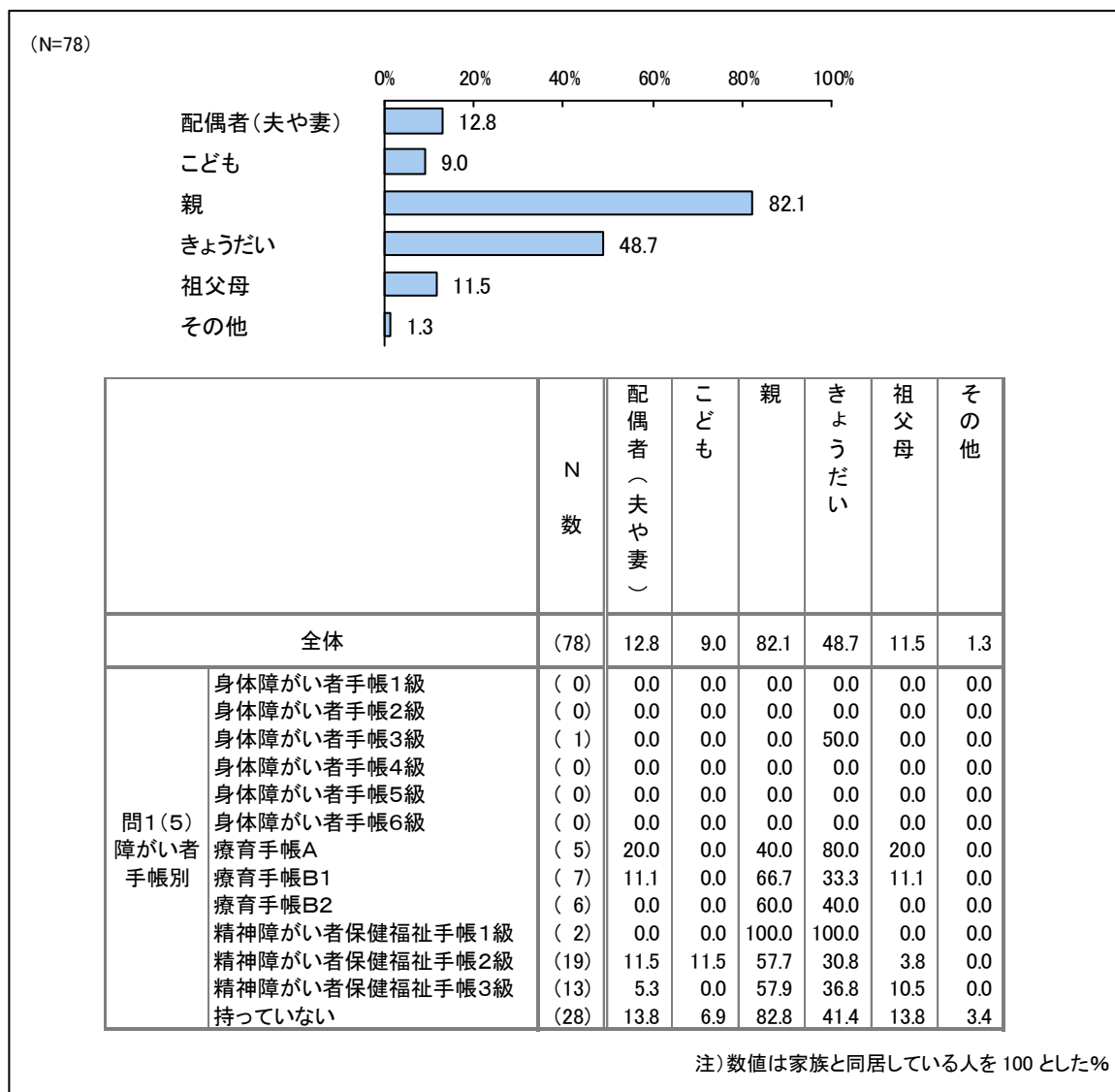
図表 問 5(2)① 世帯形態(SA)



### ③ 同居者

「親」(82.1%)が最も高く、次いで「きょうだい」(48.7%)が高い。

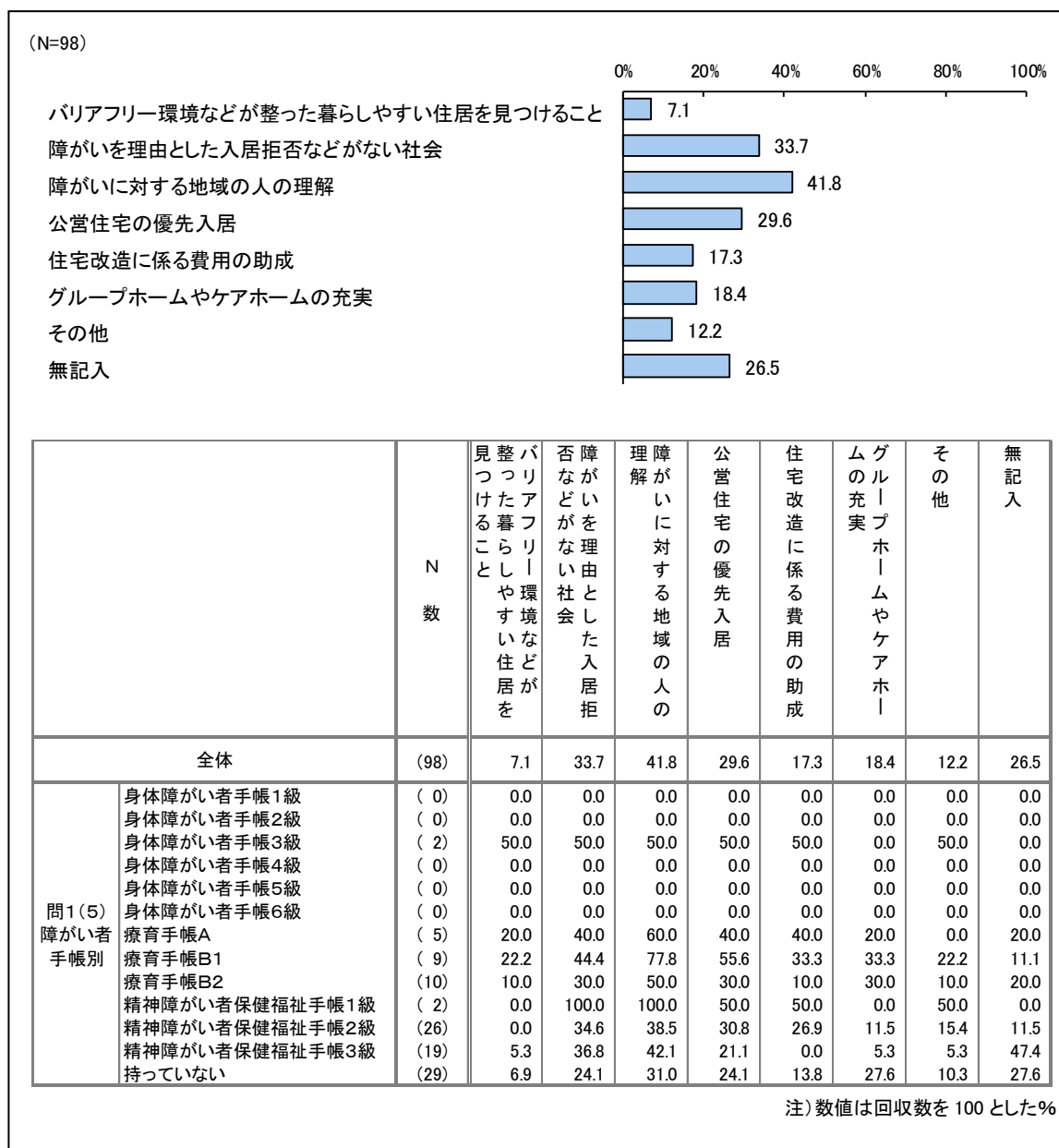
図表 問5(2)② 同居者(MA)



#### ④ 住まいの場を確保するために必要と思うこと

「障がいに対する地域の人の理解」(41.8%)、「障がいを理由とした入居拒否などがない社会」(33.7%)といった周囲の人々の理解が上位にあがっており、次いで「公営住宅の優先入居」(29.6%)が高い。

図表 問 5(3) 住まいの場を確保するために必要と思うこと(MA)



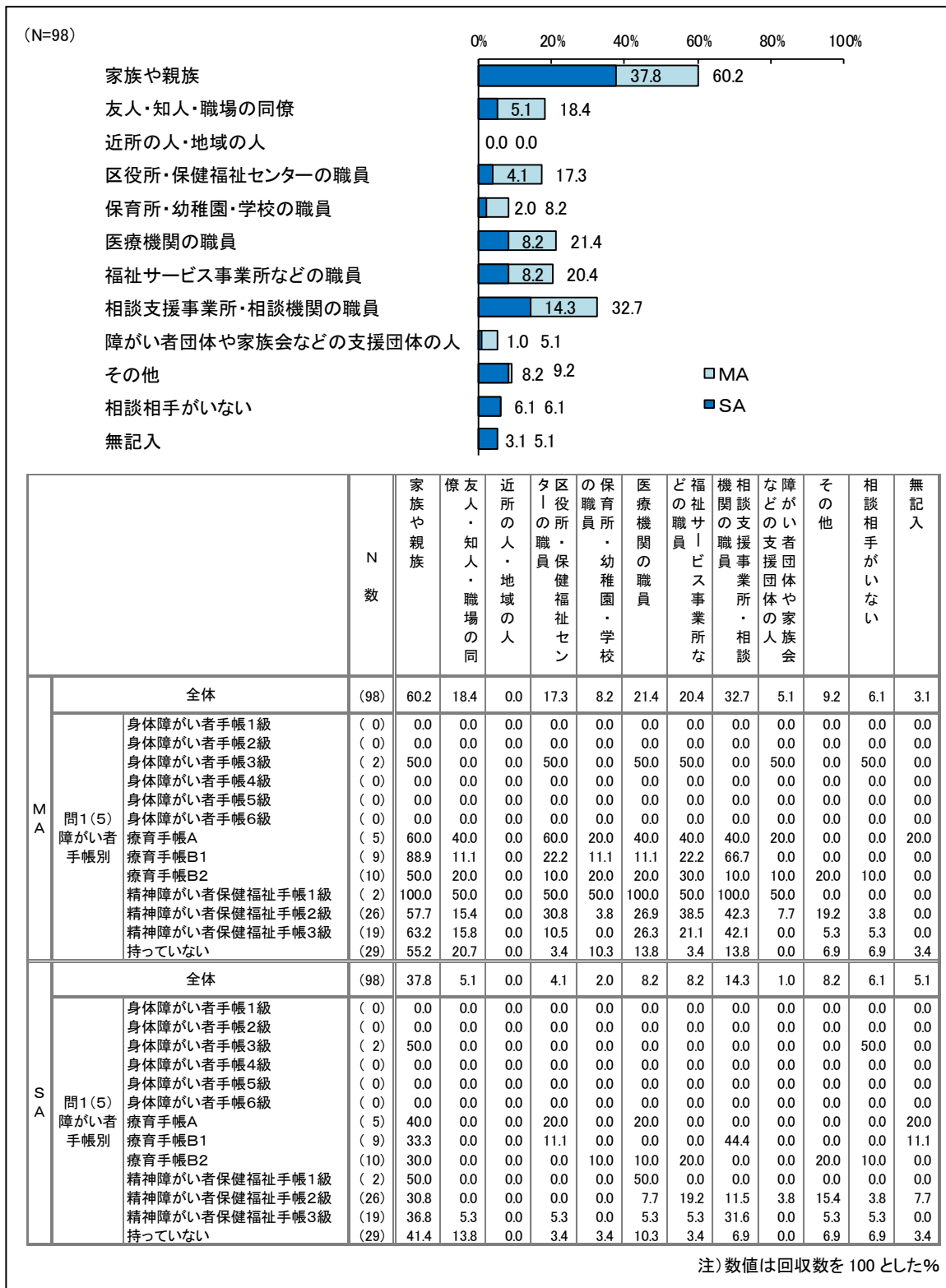
(6) 相談先や情報の入手について

① 普段の相談相手

MA、SAともに「家族や親族」(MA:60.2%、SA:37.8%)が最も高く、次いで「相談支援事業所・相談機関の職員」(MA:32.7%、SA:14.3%)が高い。

「相談相手がいない」と回答した人は6.1%。

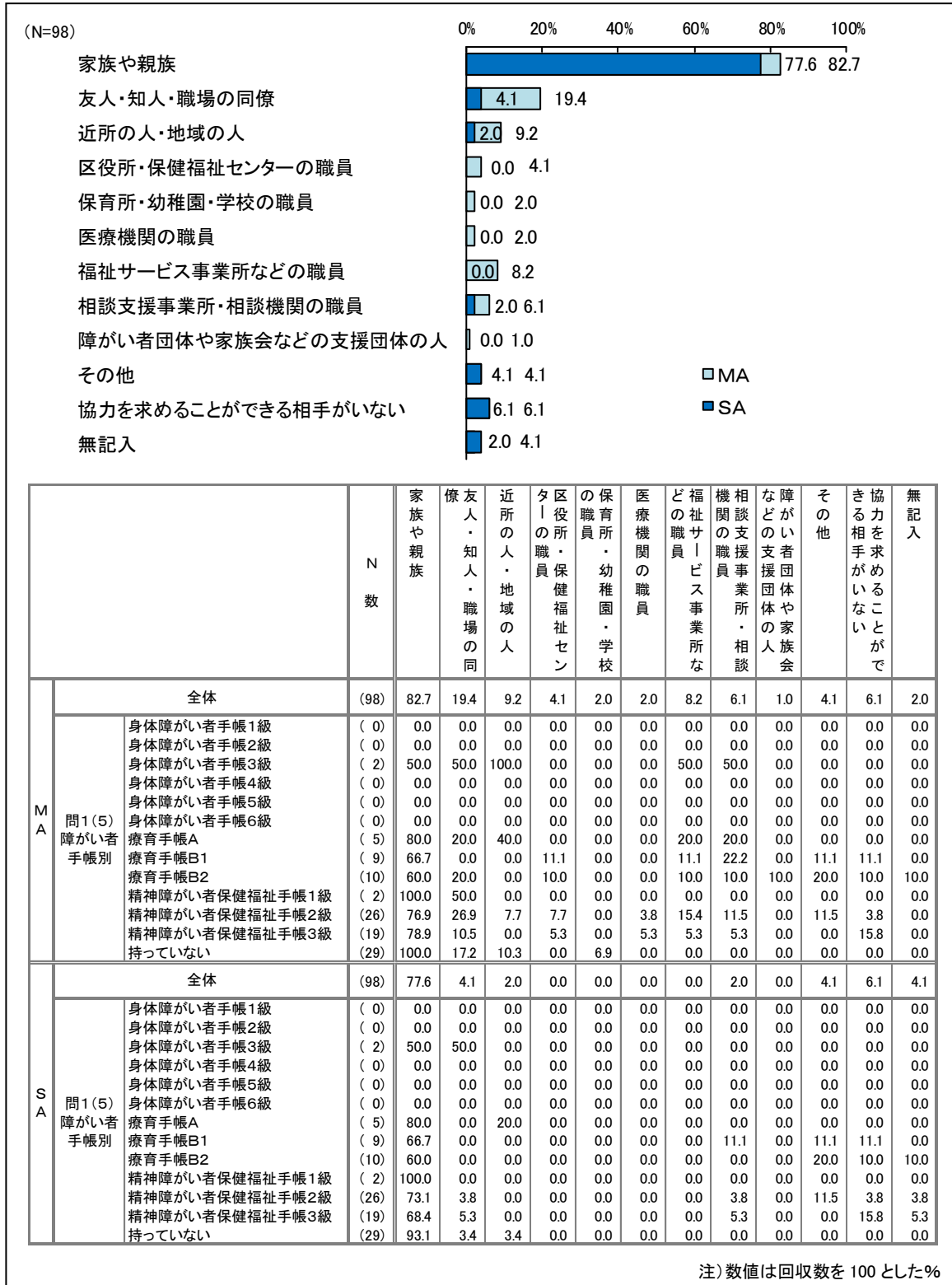
図表 問6(1) 普段の相談相手(MA/SA)



② 災害時などの緊急時に協力を求めることができる相手

普段の相談相手同様、MA、SAともに「家族や親族」(MA:82.7%、SA:77.6%)がトップ、2位以下を大きくリードしている。「協力を求めることができる相手がいない」と回答した人は6.1%。

図表 問6(2) 災害時などの緊急時に協力を求めることができる相手(MA/SA)

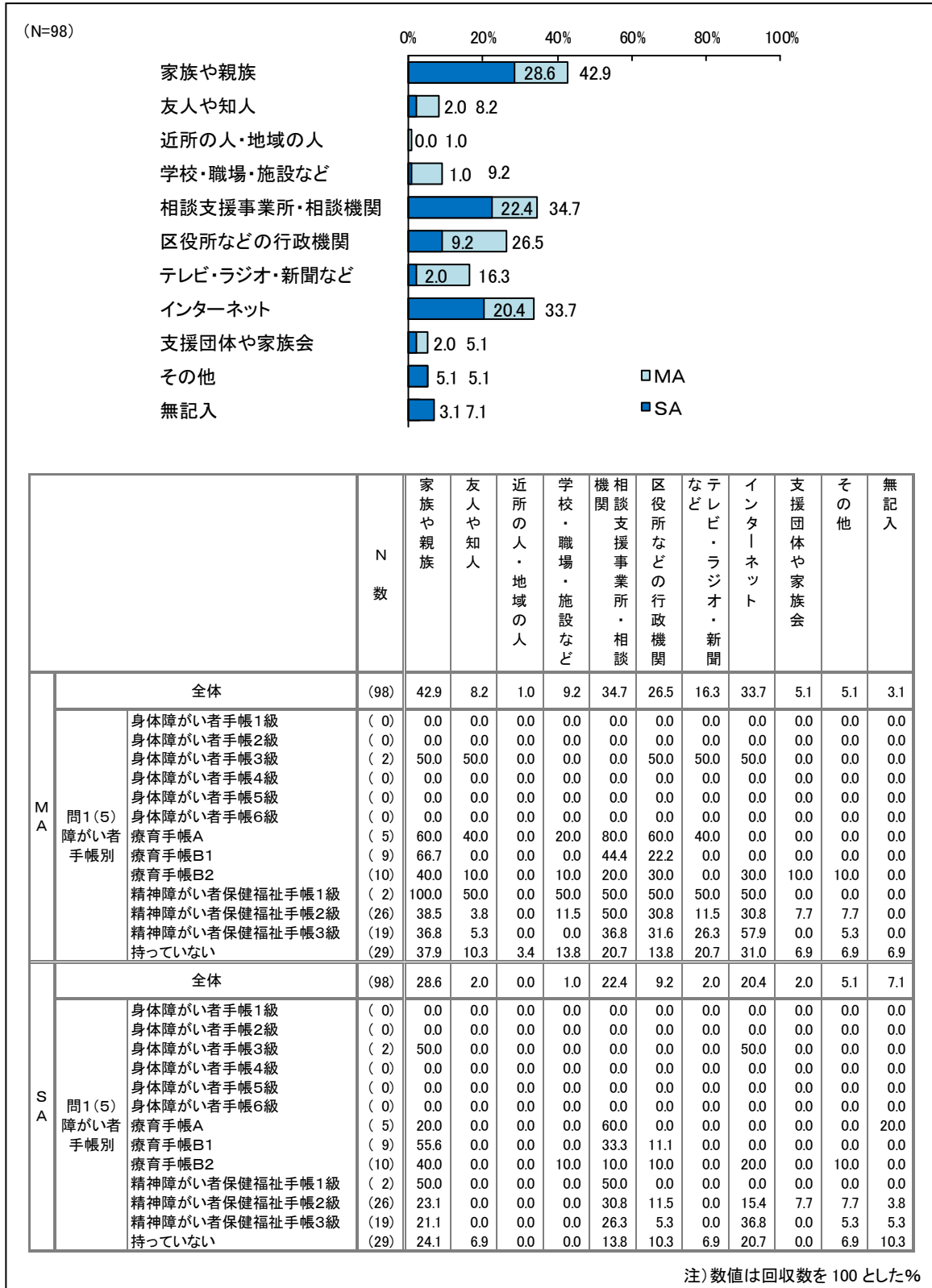




### ③ 福祉に関する情報の入手源

「家族や親族」(MA:42.9%、SA:28.6%)が最も高く、以下「相談支援事業所・相談機関」(MA:34.7%、SA:22.4%)、「インターネット」(MA:33.7%、SA:20.4%)が高い。

図表 問6(3) 福祉に関する情報の入手源(MA/SA)



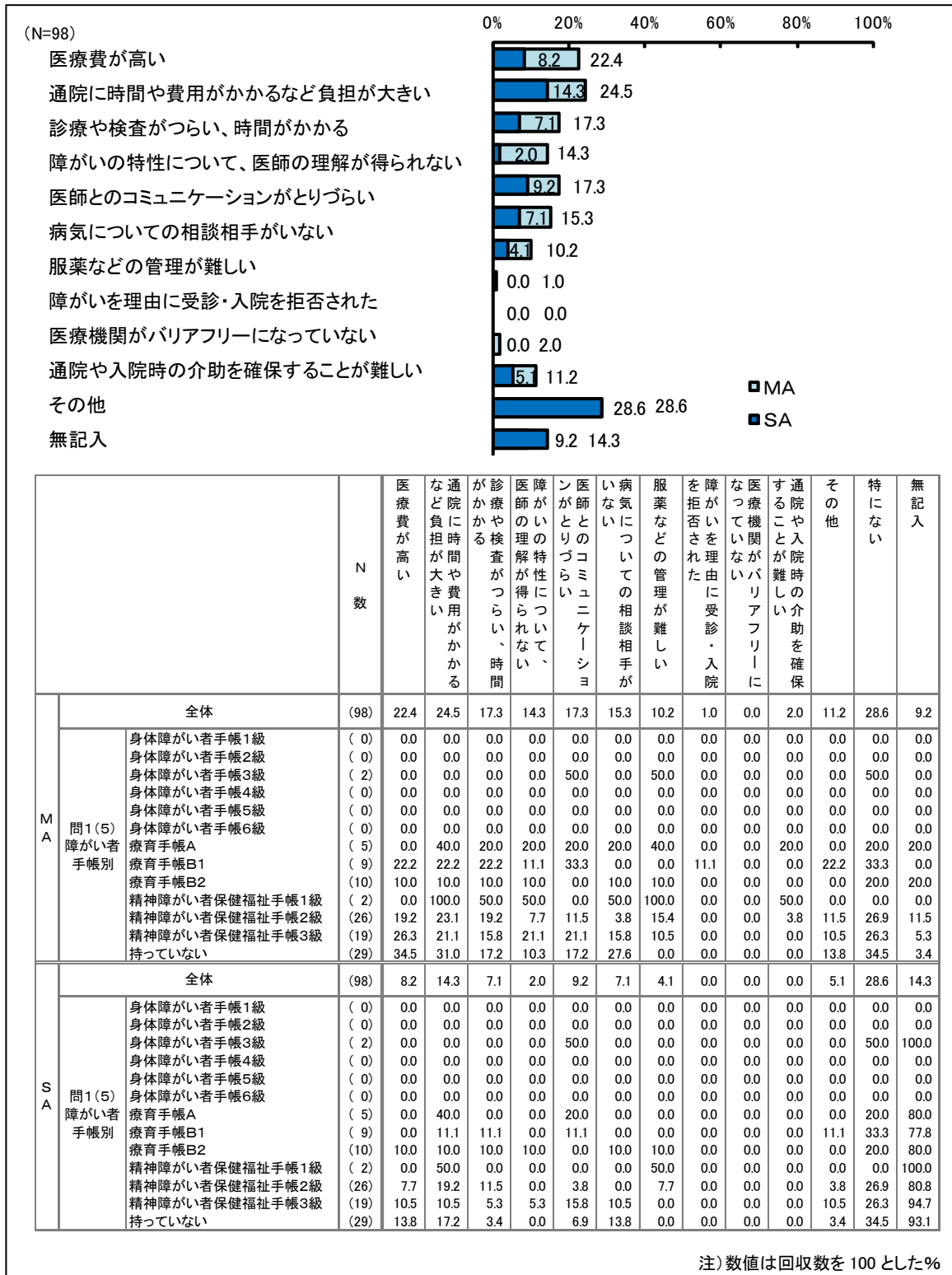
注)数値は回収数を100とした%

(7) 医療について

① 医療について困っていること

「通院に時間や費用がかかるなど負担が大きい」(MA:24.5%、SA:14.3%)、「医療費が高い」(MA:22.4%、SA:8.2%)、「医師とのコミュニケーションがとりづらい」(MA:17.3%、SA:9.2%)、「診療や検査がづらい、時間がかかる」(MA:17.3%、SA:7.1%)が上位にあがっている。

図表 問7(1) 医療について困っていること(MA/SA)

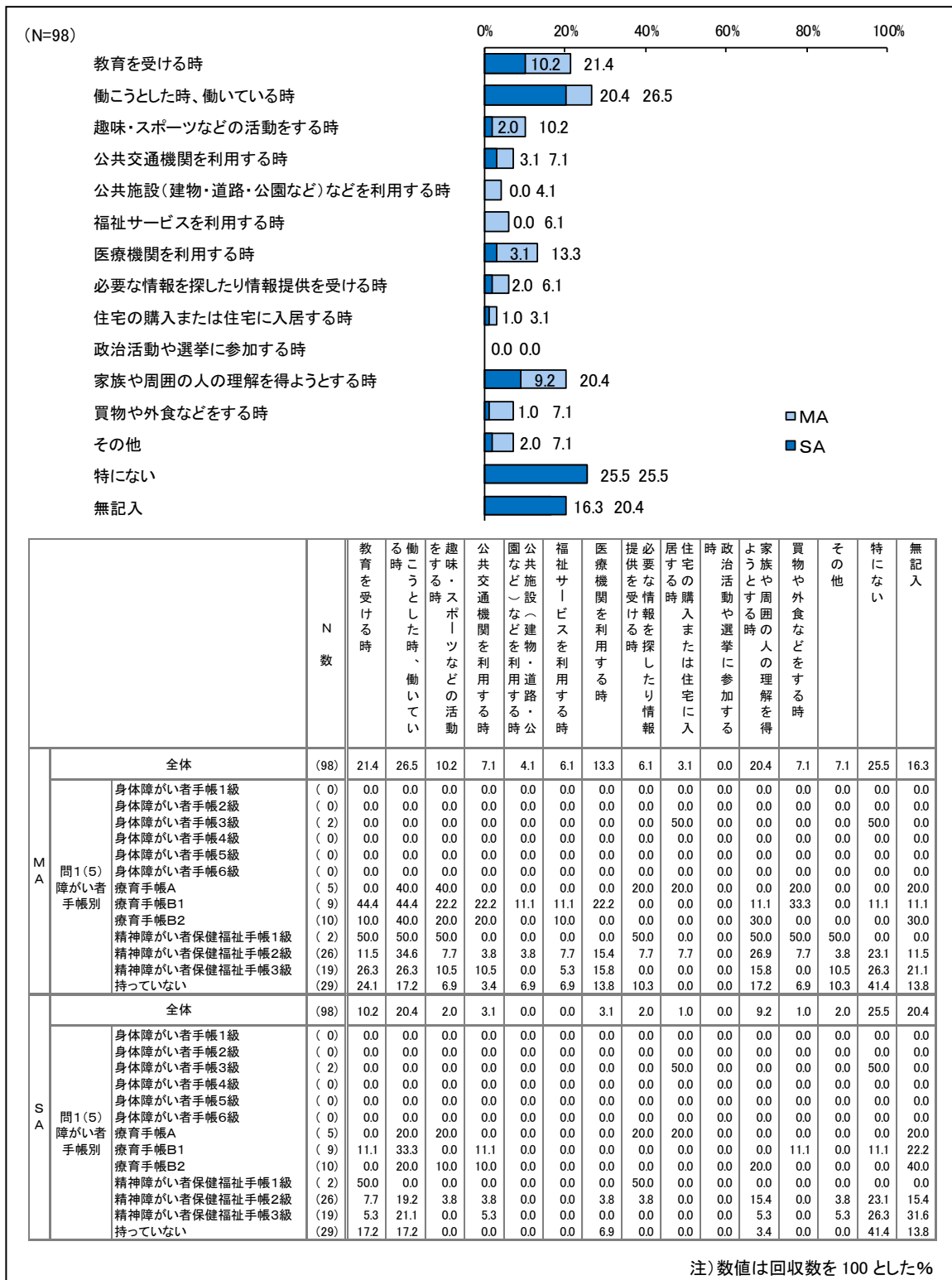


(8) 障がい者施策全般について

① 障がいを理由に不快(差別)と感じたとき

MA、SAともに「働こうとした時、働いている時」(MA:26.5%、SA:20.4%)が最も高く、以下「教育を受ける時」(MA:21.4%、SA:10.2%)、「家族や周囲の人の理解を得ようとする時」(MA:20.4%、SA:9.2%)が続く。

図表 問8(1) 障がいを理由に不快(差別)と感じたとき(MA/SA)

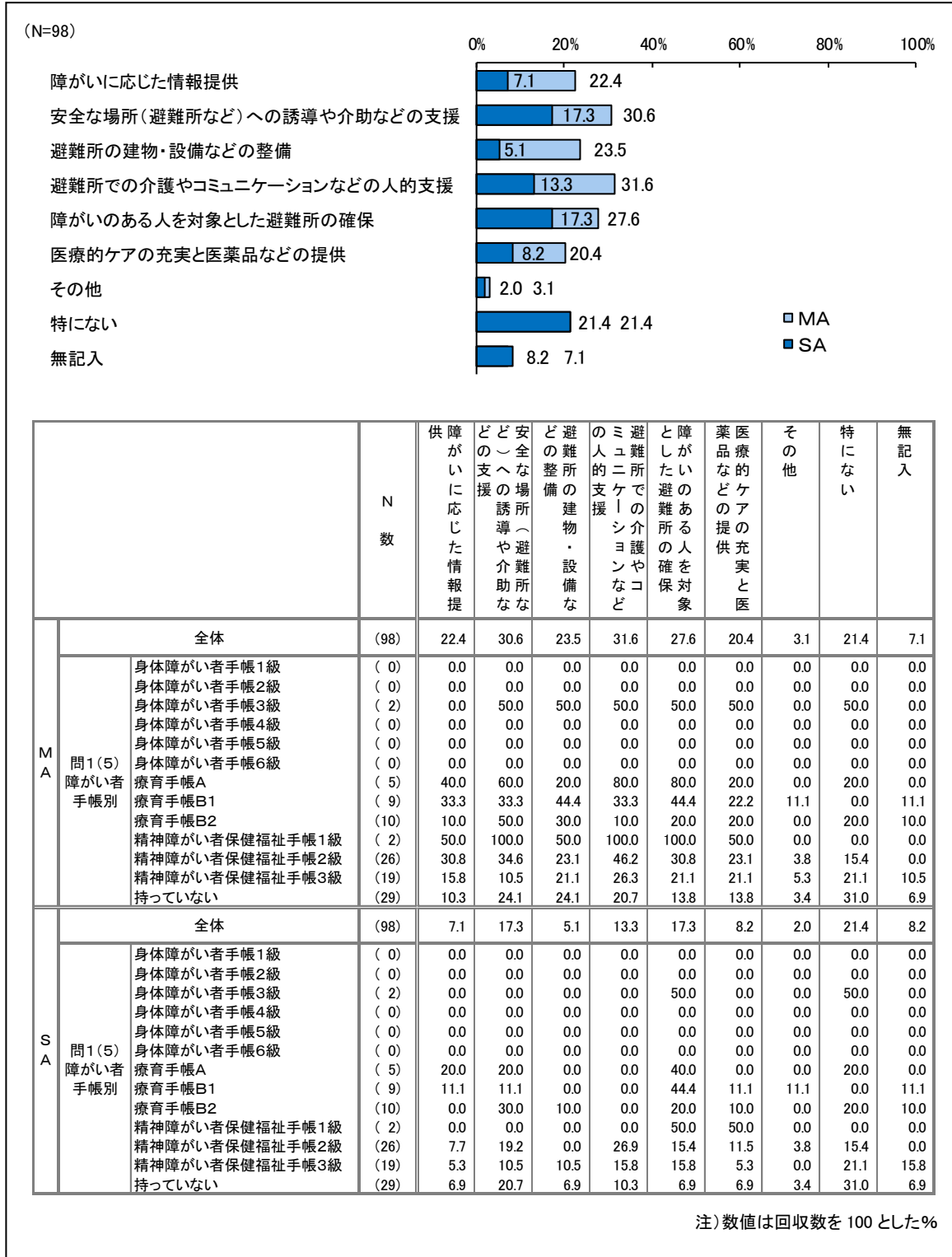


注) 数値は回収数を100とした%

## ② 地震や台風などの災害時に必要と思うこと

MA では「避難所での介護やコミュニケーションなどの人的支援」(MA:31.6%、SA:13.3%)、「安全な場所(避難所など)への誘導や介助などの支援」(MA:30.6%、SA:17.3%)、次いで「障がいのある人を対象とした避難所の確保」(MA:27.6%、SA:17.3%)が高い。

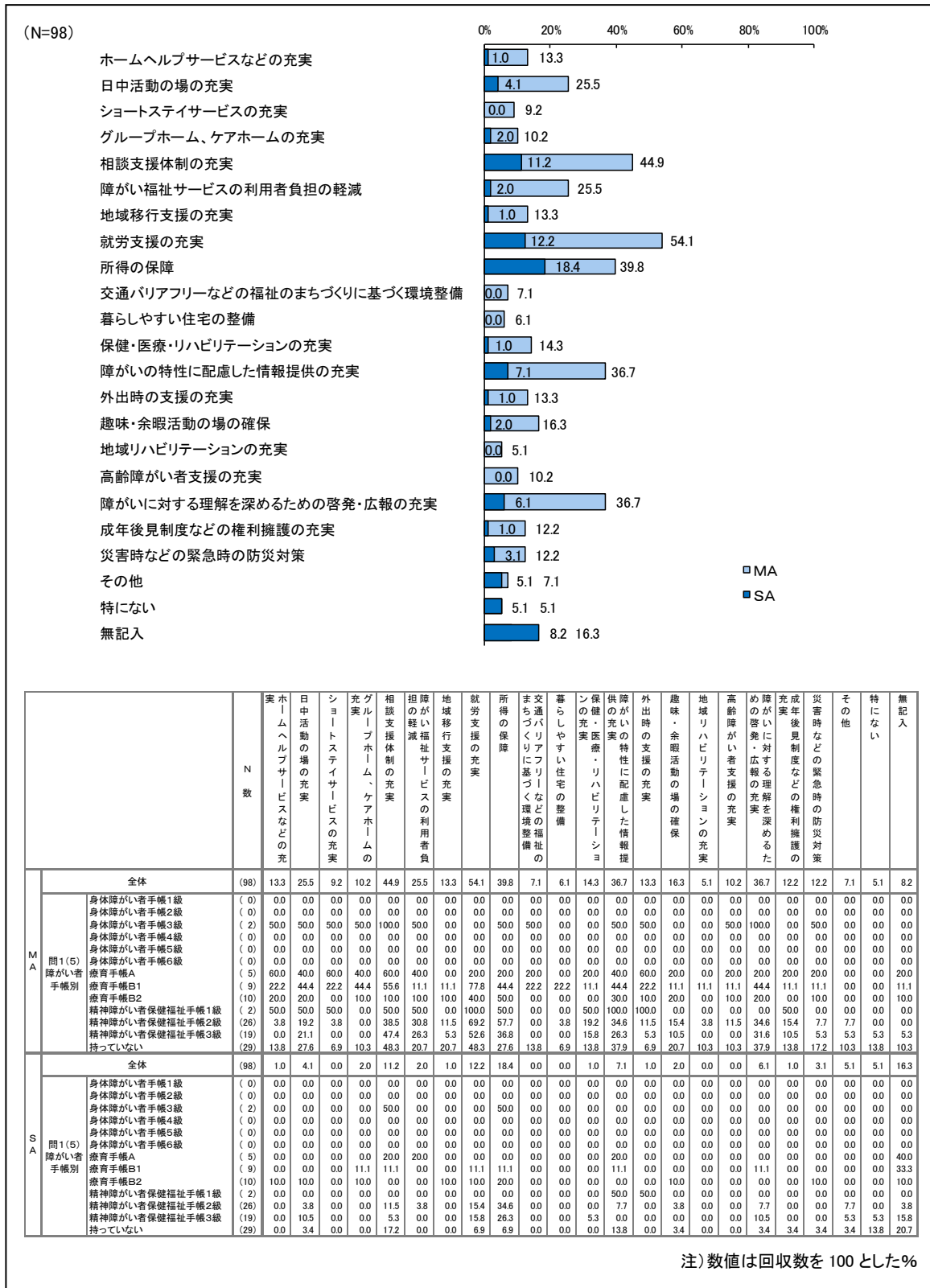
図表 問 8(3) 地震や台風などの災害時に必要と思うこと(MA/SA)



③ 障がい者施策全般について望むこと

MA では「就労支援の充実」(54.1%)、SA では「所得の保障」(18.4%)がトップ。

図表 問 8(3) 障がい者施策全般について望むこと(MA/SA)



注) 数値は回収数を 100 とした%

#### ④ 障がい者施策全般についての意見

障がい者施策全般についての意見を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

図表 問 8(4) 障がい者施策全般についての意見

- ・障がい福祉サービス事業所の利用サービスの向上(利用者の単一化、利用者の一人一人の個性に対応した支援、就労支援、施設サービスの向上)を強く望みます。
- ・目に見えない障がいについて、社会に理解して貰えておらず暮らしにくい。差別は減っていると思うけれど、理解と支援をいただきたいです。交通機関のポスター・看板・区民だより等で、(講演会は関係者しか行きませんから)広く社会全般に向けての啓発活動を大阪市政に強く望み期待します。
- ・何か困った時、行きづまった時にいつもエルムおおさかで私(母)が相談させてもらっています。相談できる場所としては本当にありがたいと思っています。しかし、本人はすでに21才となり、この年齢になるとなかなか具体的支援を受けることができないのではないのでしょうか？
- ・就労の場を増やし、企業側での障がいに対する理解を深めていってほしい。各種手続きをわかりやすくしてほしい。
- ・精神・発達障がいに対して社会サービスを行う人たち(役所、ハローワーク)に理解が少なかったりするので、お互いの意思疎通が難しい時がある。身体・知的・精神でうけられるサービスが違う。障がい者の中でも差別があるように感じる。現状、一番平等(?)に障がい者を扱っているのは携帯電話会社のみ
- ・発達障がいあまりにグレー過ぎて、周囲の理解をえるのが難しいので、行政などがもう少し情報発信などあればいいと思う。発達障がいは障がいなのか、ただできないだけ、癖なのか当事者の私もわかりづらい(障がいとアピールしていいのかわからない。)
- ・親もストレスで疲れてしまっている。親に対しての支援も欲しい。
- ・たくさん発達障がい者を助けているエルムはともうれしいのですが、そのせいか、相談のお約束がとれなかったりして困ります。それと電話回線を増やしてください。電話相談中なのか、お約束の電話ができる体調のときに通じません。あと、みんな頑張っていらっしゃるので人を増やして皆さん自身の負担も減らしてください。
- ・発達障がいに対する制度、支援がまだ整備されていないからか、手帳を取得しないと相談にもものつてくれない。発達障がい者のための障がい者手帳、就労支援がきちんと整備されるようになってほしい。
- ・非常に孤立した状態になっているので、お互いの話しを出来る仲間をもとめています。常に参加できる「場」があればと思います。
- ・まず名称の変更が必要だと思います。「障がい→プラスサポート」「くすのき学級→サポート教室」「がいがい→害がある」イメージ。「”学級”→少し知能が低いような、子供」なイメージ。ちょっとした違いに気付いてあげて、丁寧にサポートしてあげることで健常者と同じ生活ができる社会になるよう、一緒に頑張れば社会全体が幸せになれるようなプラスイメージの言葉に。

⑤ 調査票記入者

図表 問 8(5) 記入者(SA)

